２０２５年度入学生用

幼児教育学科　シラバス

基本教育科目

科目名	情　報　処　理　演　習　Ⅰ 幼2種（必修）					担当者名	小　林　健　雄
ナンバリング	26Y11A01	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	１年・①
授　業　内　容	ＰＣの基本的な仕組みやソフトウェアの利用法方法、情報検索・受発信など活用できるようにする。 Wordの基本機能を理解し、文章の入力や図・表の挿入、段組、差し込み印刷等ができるように日本語文書の作成の仕方を習得する。 HTMLで簡単なホームページを作成する。						
到　達　目　標	基本的な情報処理能力と情報を積極的に活用する態度を身に付けることができる。 Wordの基本機能を理解し、図・表の挿入、段組、差し込み印刷等の簡易な日本語文書を作成できること。指示された実習課題を作成できること。						

授業計画	回	タイトル	内　　容
	1	PCの基本操作	ウィンドウズの基本操作、ファイル操作、編集、保存、提出方法。
	2	WORDの基本操作	文字入力、複写・削除、移動、書式設定
	3	編集機能	文字位置、フォント操作、表の作成
	4	活用機能１	アイコン・画像、３Dモデル、ワードアート
	5	活用機能２	図形描画・テキストボックス・スマートアート・ドロップキャプ
	6	応用機能１	グラフの挿入・差し込みデータ・翻訳機能
	7	応用機能２	WORDでホームページ作成・DTP機能
	8	HTML	簡単なHTMLタグでホームページ作成

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業参加態度	授業への参加意欲・取り組み姿勢があること	10%
	授業中課題	課題の到達度	30%
	実技試験	問題の正答率	60%

教科書 参考図書	30時間でマスター　Word2021　　実教出版
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと
課題等に対するフィードバック方法	授業中課題の質問に答え、授業時間内に理解できなかったことは、メールにて質問を受け、応答する
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～４時間
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	情　報　処　理　演　習　Ⅱ 幼2種（必修）					担当者名	小　林　健　雄
ナンバリング	26Y11B02	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	１年・③
授　業　内　容	ＰＣの基本的な仕組みやソフトウェアの利用法方法、情報検索・受発信など活用できるようにする。 Excel（表計算ソフト）の基本的な機能の理解と操作方法を習得する。 VBAプログラミングで簡単なマクロを作成する。						
到　達　目　標	基本的な情報処理能力と情報を積極的に活用する態度を身に付けることができる。 数式を入力して値を求めることができること。相対参照と絶対参照を理解すること。グラフを作成できること。合計、平均、最大・最小を求める。IF関数等主要な関数を理解し、使えること。						

授業計画	回	タイトル	内　容
	1	ワークシート操作	編集・書式設定・保存・提出方法
	2	基礎的な関数	合計（SUM）・平均（AVERAGE）・最大（NAX）・最小（MIN）・個数（COUNT）
	3	端数処理と条件の判定	四捨五入（ROUND）・切り上げ（ROUNDUP）・切り捨て（ROUNDDOWN） 条件の判定（IF）
	4	各種グラフの作成	棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ・３Dグラフ・複合グラフ
	5	データベース操作	データベースの、集計・並びかえ・検索・置換・抽出
	6	検索・文字列操作	列の検索（VLOOKUP）・行の検索（HLOOKUP）・列行の検索（INDEX） 文字列操作（LEN・LEFT・RIGHT・MID・VALUE・FIXED・MOD）
	7	データベース関数と 条件付き集計	データベース関数（DSUM・DAVERAGE・DMAX・DMIN・DCOUNT） 条件付き集計（COUNTIFS・SUMIFS・AVERAGEIFS）
	8	マクロと VBAプログラミング	マクロによるコンピュータ処理の自動化

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業参加態度	授業への参加意欲・取り組み姿勢があること	10%
	授業中課題	課題の到達度	30%
	実技試験	問題の正答率	60%

教科書 参考図書	30時間でマスター　Excel2021　実教出版
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと
課題等に対するフィードバック方法	授業中課題の質問に答え、授業時間内に理解できなかったことは、メールにて質問を受け、応答する
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～４時間
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	日本語表現Ⅰ（文章） 選択					担当者名	八木　雄一郎
ナンバリング	26Y11A03	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・①
授業内容	良い文章を書くための基本的な技術やルールを学ぶとともに、文章を書く際の着想力や発想力、文章の構成に要求される表現技術を身に付ける。レポート、論文の書き方等の文章作法を習得する。						
到達目標	日本語による文章作成に関する基本的な能力が身に付いている。						

授業計画	回	内容
	1	日本語表現についての概論
	2	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用
	3	文章を書くための基本的な技術やルール
	4	文章を書く際の着想力や発想力
	5	文章の構成に要求される表現技術
	6	新聞記事などの朗読を通して学ぶ効果的な朗読法
	7	目的に合わせた文章表現
	8	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評価基準	割合
	課題への対応	授業課題への取り組み	40%
	授業時の活動	活動への参加態度	30%
	最終レポート	課題の趣旨を理解し、自身の考えを文章として適切にまとめられているか。	30%
			%

教科書	特になし
参考図書	授業中に指示する。
準備学習	授業後に課題を出すことがあるので、次時までに取り組んでくること(提出方法などは授業中に指示する)。
課題等に対するフィードバック方法	提出された作文等については資料化し、受講者全体で共有できるようにする(授業時の教材とする)。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	信州大学教育学部准教授(国語科教育学関連の講義・演習を担当)、長野看護専門学校非常勤講師(「論理学」担当)

科目名	日本語表現Ⅱ（口頭） 選択					担当者名	八木　雄一郎
ナンバリング	26Y11B04	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・②
授 業 内 容	発声や発音の訓練、的確な意見の述べ方や議論の進め方、論理的思考、客観的思考、説得力や自己表現力を高めるための技法などを学習し、初年次教育科目として日本語による発表や討論のための実践的なスピーチ、プレゼン等の能力を高めていく。						
到 達 目 標	論理的思考や客観的思考に基づいた実践的なスピーチができる。						

授業計画	回	内　　容
	1	日本語表現Ⅱの概論
	2	聞きやすい発声や発音の訓練
	3	論理的思考・客観的思考に基づいた的確な意見の述べ方について
	4	論理的思考・客観的思考に基づいた議論の進め方について
	5	説得力や自己表現力を高めるための技法について①
	6	説得力や自己表現力を高めるための技法について②
	7	演習
	8	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	課題への対応	授業課題への取り組み	40%
	授業時の活動	活動への参加態度	30%
	最終レポート	課題の趣旨を理解し、自身の考えを文章として適切にまとめられているか。	30%
			%

教科書	特になし
参考図書	授業中に指示する。
準備学習	授業後に課題を出すことがあるので、次時までに取り組んでくること(提出方法などは授業中に指示する)。
課題等に対するフィードバック方法	提出された作文やレポート等については資料化し、受講者全体で共有できるようにする(授業時の教材とする)。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	信州大学教育学部准教授(国語科教育学関連の講義・演習を担当)、長野看護専門学校非常勤講師(「論理学」担当)

科目名	英語表現Ⅰ（基礎） 幼2種（必修）					担当者名	中田麗子
ナンバリング	26Y11A05	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・①
授 業 内 容	高等学校までの既習の教科目の学習内容を踏まえたうえで、保育に関連した場面において頻出する英語の表現、実際的な場面を想定した英語によるコミュニケーションについて学習する。						
到 達 目 標	保育に関連した場面において頻出する英語表現や実際的な場面を想定した英語によるコミュニケーションができる。						

授業計画	回	内　　容
	1	英語表現Ⅰ（基礎）の概論
	2	保育における英語表現①自己紹介
	3	保育における英語表現②道案内
	4	保育における英語表現③体調を聞く、確認テスト
	5	保育における英語表現④好きなものを聞く
	6	保育における英語表現⑤ものの場所を示す
	7	保育における英語表現⑥人に何かするように／しないように言う
	8	確認テストと授業まとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業態度	授業ごとのリアクションペーパーを提出できたか	40%
	確認テスト		60%
			%

教科書	―土屋麻衣子著『Happy English for Childcare 保育のための基礎英語』（金星堂）
参考図書	
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておく。授業で出された課題をやっておく。
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーは、次の授業の際に講評を行う。確認テストは授業で振り返りを行う。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	保育士、英検1級、国際学会や会議における英語での口頭発表・議論、英語論文の執筆。

科目名	英語表現Ⅱ（応用） 幼2種（必修）					担当者名	中田麗子
ナンバリング	26Y11B06	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・②
授 業 内 容	既習の「英語表現Ⅰ（基礎）」の学習内容を踏まえたうえで、保育の場面で使える、覚えておくと便利な英語の表現について学ぶとともに、自分の意見を相手に伝えることのできる英語による応用的なコミュニケーションについて学習する。						
到 達 目 標	保育場面で使う英語の表現や自分の意見を相手に伝えることのできる英語による応用的なコミュニケーションができる。						

授業計画	回	内　　容
	1	「英語表現Ⅱ」の概要、様々な場面において覚えておくと便利な英語①食物アレルギー
	2	様々な場面において覚えておくと便利な英語②お昼寝・排泄
	3	様々な場面において覚えておくと便利な英語③1日の様子を伝える
	4	自分の意見を相手に伝える場面でのコミュニケーション①予定を伝える、確認テスト
	5	自分の意見を相手に伝える場面でのコミュニケーション②同僚との打合せ
	6	自分の意見を相手に伝える場面でのコミュニケーション③体調不良について伝える
	7	グループ課題の発表
	8	確認テストと授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業態度	授業ごとのリアクションペーパーを提出できたか	40%
	確認テスト		60%
			%
			%

教科書	―土屋麻衣子著『Happy English for Childcare 保育のための基礎英語』（金星堂）
参考図書	
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておく。授業で出された課題をやっておく。
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーは、次の授業の際に講評を行う。確認テストは授業で振り返りを行う。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	保育士、英検1級、国際学会や会議における英語での口頭発表・議論、英語論文の執筆。

科目名	キャリアデザインⅠ 選択					担当者名	荻原美広
ナンバリング	26Y11D07	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・①
授 業 内 容	職業観を涵養し、職業に関する知識を習得させ、自己の個性を理解した上で、卒業生や外部講師による職業体験談を通じて、勤労観や職業観の醸成を図る。						
到 達 目 標	自分の個性や性格を理解するためにの自己分析と職業選択の考え方や進め方が分かる。						

授業計画	回	内　　容
	1	キャリアを意識することで成長する力、発展する力を学ぶ
	2	ＶＰＩ検査をもとに将来のライフプランと今できることを確認する
	3	相談における傾聴の意義・技法について理解する
	4	疑似体験によってカウンセリングを学ぶ（ロールプレイ）
	5	就職活動の「流れ」について※今、すべきことは何か？
	6	エンプロイアビリティについて考える
	7	「キャリアの心理学」キャリアカウンセリングの観点から
	8	「Planned Happenstance Theory(計画された偶発性)」

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	平常点	積極的にGW（グループワーク）に参加しているか	15%
	課題・振り返り	講義ごとのテーマに対して自分の意見がかけているか	35%
	試験（レポート）	レポート課題に対して論理的に表現ができているか	50%
			%

教科書	資料を配布する。
参考図書	『キャリアデザイン概論』（雇用問題研究会）・『産業カウンセリング入門』（社団法人産業カウンセラー協会）
準備学習	時事関連のニュース等に着目し、自分の注目すべきキーワードについて発言（主張）ができるようにすること
課題等に対するフィードバック方法	各講義の最後の「ふりかえりシート」の記入を課す。次回フィードバックとして、講師からのコメントを確認し前回の講義をふりかえりステップとして講義に臨む
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	キャリアをデザインするために、磨杵作針というように１～４時間の予習・復習を伴う
その他　留意事項	学習とは、「なぜ？本当？」の気持ちで臨むこと
実務経験と資格等	長野女子高等学校キャリアデザイン特別講師、上田福祉専門学校敬愛学院特別講師、長野大学キャリア科目講師、厚生労働省委託事業「働く若者ネット相談事業」キャリアカウンセラー、国家資格キャリアコンサルタント、産業カウンセラー

科目名	キャリアデザインⅡ 選択					担当者名	荻原美広
ナンバリング	26Y11D08	授業の種類	講　義	単位数	1	開講時期	２年・①
授 業 内 容	キャリア理論や各種アセスメントを通して自己理解を深め、保育者という職業への理解を踏まえながら、将来のキャリア形成について主体的に考える。ビジネスマナーに関する知識や態度の習得を測る。（理論、個人ワーク、共有）						
到 達 目 標	①自己理解を含め、保育者としての進路や将来のキャリアについて主体的に考えることができる。 ②保育者に求められる資質や社会人としての基本的態度を理解する。 ③自己の価値観や興味・能力を踏まえ、将来のキャリアについて主体的に考え、自分なりのキャリアプランを描くことができる。						

授業計画	回	内　　容
	1	キャリア形成の自己理解。（キャリアの意味（人生・仕事・成長）保育という仕事の社会的役割、キャリア形成の自己理解）
	2	キャリア・レインボーによる人生役割の理解
	3	キャリア・アンカーによる価値観と職業観の理解
	4	職業適性と職業興味の理解（GATB・VPIの考え方）
	5	職業理解とキャリア形成
	6	社会人基礎力と社会で求められる能力
	7	メンタルヘルスとストレスマネジメント
	8	キャリア形成のまとめ、自己のキャリアプラン作成

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	平常点（授業参加）	授業内のワークやディスカッションに積極的に参加しているか。	20%
	課題・振返り	各回のテーマについて自己理解を深め、自分の考えを適切に表現できているか。	30%
	最終レポート （キャリアプラン）	授業内容を踏まえ、自身のキャリア形成について論理的に考察できているか。	50%

教科書	資料等を配布する。
参考図書	必要に応じて提示する。
準備学習	時事関連のニュースも含め、新聞等を読み、自身の経験や考えを整理することを心がけておく。
課題等に対するフィードバック方法	「振り返りシート」の記入を課すこともある。
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	キャリアをデザインするために必要と思われる時間を費やすこと。
その他　留意事項	授業中の飲食禁止。
実務経験と資格等	

科目名	育児と介護 選択					担当者名	吉澤　恵子
ナンバリング	26Y11E08	授業の種類	講　義	単位数	1	開講時期	２年・②④
授 業 内 容	高齢化社会の進展に伴う核家族化や単身世帯の増加など現代社会が抱える問題点や課題について認識を深めることで、育児や介護のあり方について考察していく。						
到 達 目 標	現代家族の機能や役割と家族制度や家族関係をめぐる諸問題について考えることができる。						

授業計画	回	内　　容
	1	授業の目的と概要について
	2	育児と介護の現状と課題
	3	育児と介護に関わる制度や施策の変遷
	4	介護を必要とする人の理解
	5	介護のはたらきと基本的な視点
	6	育児と介護のサービスのあり方と多職種連携について
	7	医療的ケア児の現状と課題
	8	育児と介護を支えるコミュニティ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	グループワーク参加態度	グループワーク等積極的に参加し、課題に取り組んでいる	40%
	レポート	内容及び提出状況	60%
			%
			%

教科書	最新福祉養成講座12　発達と老化の理解：中央法規
参考図書	国民衛生の動向　・　現代社会福祉の諸相　　著者：大熊信成・嶋田芳男・増田康弘 大学図書出版
準備学習	自分の身の回りの育児や介護の状況に関心を寄せる
課題等に対するフィードバック方法	添削し返却する。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する
その他　留意事項	適宜実施するグループワーク等に積極的に参加すること
実務経験と資格等	

科目名	地域と文化 選択					担当者名	望月　誠
ナンバリング	26Y11E10	授業の種類	講　義	単位数	1	開講時期	夏季集中講義
授 業 内 容	日本や地域の歴史文化のあり方について、主にフィールドワークを通して学ぶ。地域調査および社会調査の手法を用いながら、地域の地理的・歴史的背景が、地域文化の形成にどのような影響を与えているか分析する。						
到 達 目 標	地域における生活文化の成り立ちや地域変容のあり方を考察することで、地理的・歴史的なものの見方・考え方を身につけること。						

授業計画	回	内　　容
	1	授業ガイダンス（地域と文化の関わりについて）
	2	身近な地域のフィールドワーク事前学習（長野市三輪の歴史と地理）
	3	身近な地域のフィールドワーク①エクスカーション
	4	身近な地域のフィールドワーク②グループ別
	5	善光寺と信濃の信仰(フィールドワーク①エクスカーション)
	6	〃（フィードワーク②グループ別）
	7	〃（フィードワーク③調査・ヒアリング）
	8	〃（フィードワーク④発表）

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	レポート・提出物	問題の趣旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか	50%
	グループ発表	課題を正確に捉え、協働して発表することができたか	30%
	授業参加態度	フィールドワークへの参加意欲・取り組み姿勢を評価する	20%

教科書	授業ごとテーマに沿った資料を配付する
参考図書	長野県立歴史館『日常生活からひもとく信州』『広い世界とつながる信州』（共に信濃毎日新聞社2018年）、市川健夫『信州学入門』（信州教育出版、1989年）、『信州学ノート』（同、1994年）三輪地区郷土史部会三輪郷土誌編集委員会編『三輪郷土史』（長野市2001年）など
準備学習	必要に応じて事前学習や資料収集を指示する
課題等に対するフィードバック方法	添削して返却し、返却時には講評・解説を行う
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	１～２時間
その他　留意事項	
実務経験と資格等	Summit Academy 長聖小学校および長聖中等教育学校 教頭、教育学修士、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(社会)、高等学校教諭専修免許状(地歴公民)、自治体・高等教育機関との社会活動(嘱託)多数、歴史学・社会科学分野の所属学会等多数、地域社会に関する学会発表・論文・共著等多数。

科目名	経済と政策 選択					担当者名	望月　誠
ナンバリング	26Y11E11	授業の種類	講　義	単位数	1	開講時期	２年・②④
授 業 内 容	現代経済の基本的な概念と枠組みについて概説したうえで、経済的な見方や捉え方、考え方について学習する。現代社会における経済構造と経済政策との関連性や経済問題の多様性の理解を通して、経済活動や経済現象に対する興味と関心を深めていく。						
到 達 目 標	現代社会における経済構造と経済政策との関連性や経済問題の多様性を理解している。						

授業計画	回	内　　容
	1	経済と政策の相関関係について
	2	生活の豊かさを表す数字とは
	3	市場経済における価格設定（ガソリンが価格調整されている）
	4	薄利多売は誰がよろこぶ？（価格の決定）
	5	生涯賃金（ファイナンシャルプランの観点から）
	6	生活に直結する税金
	7	経済と政策と人口のトライアングル
	8	格差社会における貧困の現実

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	平常点	積極的にGW（グループワーク）に参加しているか	15%
	課題・振り返り	各講義のテーマに対して自分の意見が書けているか	35%
	試験（レポート）	レポート課題に対して論理的に表現ができているか	50%

教科書	宮本弘曉『私たちの日本経済』（有斐閣　2024年）
参考図書	『大人のための社会科-未来を語るために-』（有斐閣　2017年）
準備学習	時事関連のニュース等に着目し、自分の注目すべきキーワードについて発言（主張）ができるようにすること
課題等に対するフィードバック方法	各講義の最後の「ふりかえりシート」の記入を課す。次回フィードバックとして、講師からのコメントを確認し前回の講義をふりかえりステップとして講義に臨む
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	身近な経済を知るために、磨杵作針というように１～４時間の予習・復習を伴う
その他　留意事項	学習とは、「なぜ？本当？」の気持ちで臨むこと
実務経験と資格等	長野女子高等学校教頭、Summit Academy Secondary School NAGANO教諭、教育学修士、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(中学)、高等学校教諭専修免許状(地歴公民)、自治体・高等教育機関との社会活動(嘱託)多数、歴史学・社会科学分野の所属学会等多数、地域社会に関する学会発表・論文・共著等多数。

科目名	自然と環境 選択					担当者名	望月 誠
ナンバリング	26Y11E12	授業の種類	講　義	単位数	1	開講時期	２年・②④
授 業 内 容	大気汚染・水質汚濁・森林破壊・異常現象・自然災害・自然保護等の自然環境や公害問題・騒音問題・廃棄物処理・二酸化炭素削減等の社会環境及び持続可能社会・循環型社会・環境共生都市等の都市環境など、地球規模で生じている環境現象の題材を取り上げ考察し、環境に対する問題意識を高め、環境劣化・環境汚染・環境破壊・環境かく乱などの課題と対策に関する理解を深める。						
到 達 目 標	地球規模で生じている環境現象の題材を取り上げ、その課題と対策を考察することができる。						

	回	内　　容
授業計画	1	私たちを取り巻く環境
	2	私たちが住む地球
	3	気象と健康
	4	地球温暖化
	5	地球環境問題
	6	地域環境問題
	7	室内における環境問題と都市の環境問題
	8	化学物質と放射性物質による環境汚染

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	筆記試験	問題の正答率	80%
	課題・レポート・提出物	問題の趣旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか	10%
	授業参加態度	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する	10%

教科書	授業ごとテーマに沿った資料を配布する
参考図書	
準備学習	必要に応じて事前学習や資料収集を指示する
課題等に対するフィードバック方法	添削して返却し、返却時には講評・解説を行う
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～２時間
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	健康と運動Ⅰ 幼2種・保育士（必修）					担当者名	白金　俊二
ナンバリング	26Y11D11	授業の種類	講義・演習	単位数	1	開講時期	1年・①②
授業内容	社会生活における健康と安全について概説したうえで、健康と安全や運動についての理解と各種の運動の特性に応じた実践を行い、技能や能力を身に付けて行く。						
到達目標	運動の楽しさが分かり、運動の特性に応じた基礎的技能を身に付けることができる 身体や体力への理解を深め､健康に対する見方､考え方を広げることができる						

授業計画	回	内容
	1	授業の目的と概要について
	2	コーディネーション運動
	3	野外の活動の意義とレクリエーションゲームについて
	4	レクリエーションゲームの実践（集中授業）
	5	レクリエーションゲームの実践（集中授業）
	6	ネット型球技　バドミントン　（集中授業）
	7	〃　　バレーボール　（集中授業）
	8	〃　　バレーボール
	9	ジャンピングロープ（短縄・大縄）
	10	〃　　（ダブルダッチ）
	11	ベースボール型球技　ティーボール
	12	ターゲット型球技　ボッチャ・モルック
	13	日本の健康水準と現代の健康課題について
	14	生活習慣病の予防について
	15	感染症の予防について

成績評価方法と基準	評価方法	評価基準	割合
	実技課題	それぞれの種目の特性を理解し、基礎的な知識・技能の習得ができたか	60%
	課題レポート	課題の主旨に沿って適切にまとめられたか	40%

教科書	健康と運動の理論と実践（学術文芸出版）
参考図書	必要があれば資料をGoogle classroomに載せる
準備学習	日頃から健康管理をしておきましょう
課題等に対するフィードバック方法	添削し返却する
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１時間程度を推奨する
その他　留意事項	体育館内のWBGT測定器の数値(暑さ指数)やアラートの発令などにしたがって、講義に内容を変更することがあります。その他、運動にふさわしい服装､髪形で参加し、サンダルは禁止とします。また、指示がなくても水分補給をするなど、健康・安全に留意して行いましょう。
実務経験と資格等	長野県内の公立小学校・中学校教諭として26年間勤務 地域のスポーツクラブの指導者及び幼児の運動遊び教室の指導者

科目名	健康と運動Ⅱ 幼2種・保育士（必修）					担当者名	白金　俊二
ナンバリング	26Y11D12	授業の種類	講義・演習	単位数	1	開講時期	２年・②③
授業内容	適切な運動の経験を通して生涯に通じる健康と健康を支える環境づくりについて理解したうえで、生涯スポーツの目的や意義ついて学ぶ						
到達目標	個人の生活・健康状態・年齢及び体力に応じた生涯スポーツの実践や方法について理解できる						

	回	内　　容
授業計画	1	体力向上・健康増進のための運動について
	2	ネット型球技（２）バレーボール
	3	ネット型球技（２）〃
	4	ネット型球技（２）〃
	5	スポーツの起こりと古代オリンピックについて
	6	近代オリンピックについて
	7	ベースボール型球技（１）　ティーボール
	8	ゴール型球技（１）フットサル
	9	ゴール型球技（１）フットサル
	10	生涯スポーツの意義について
	11	ゴール型球技（２）バスケットボール
	12	ゴール型球技（２）バスケットボール
	13	ゴール型球技（２）バスケットボール
	14	生涯スポーツ社会の実現について
	15	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	実技課題	それぞれの種目の特性を理解し、基礎的な知識・技能の習得ができたか	60%
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられているか	40%

教科書	健康と運動の理論と実践（学術文芸出版）
参考図書	必要があれば資料をGoogle classroomに載せる
準備学習	日頃から体調管理をしておきましょう
課題等に対するフィードバック方法	添削して返却する
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１時間程度を推奨する
その他　留意事項	体育館内のWBGT測定器の数値(暑さ指数)やアラートの発令などにしたがって、講義などに内容を変更することがあります。その他、運動にふさわしい服装､髪形で参加し、サンダルは禁止とします。また、指示がなくても水分補給をするなど、健康・安全に留意して行いましょう。
実務経験と資格等	長野県内の公立小学校・中学校教諭として26年間勤務 地域のスポーツクラブの指導者及び幼児の運動遊び教室の指導者

科目名	日本国憲法 選択					担当者名	望月　誠
ナンバリング	26Y11C13	授業の種類	講　義	単位数	2	開講時期	1年・③④
授 業 内 容	人の一生について出生から人生の終焉を迎えるまでには、親子関係・結婚と家族生活・労働と職場・財産と相続といった多くの問題に直面する。こうした身近な問題について、憲法を中心に法律を通して考えながら現実を直視し、積極的にかかわっていくことができるための学習をする。						
到 達 目 標	・憲法や法律を身近なものとしてとらえることができる。 ・法律的な視点で物事を考える習慣(リーガルマインド) を身につけることができる。 ・自分の考えを論理的に述べることができる。 ・討論を通じて相手との意見交換に積極的に参加できる。						

授業計画	回	タイトル	内　　容
	1	法とは何か	授業の目的と概要
	2	憲法の基本原理(1)	憲法とは何か
	3	憲法の基本原理(2)	憲法の私人間効力
	4	憲法の基本原理(3)	人権の享有主体
	5	平等権	法の下の平等
	6	自由権(1)	信仰の自由
	7	自由権(2)	学問の自由
	8	自由権(3)	表現の自由
	9	社会権(1)	経済的自由権と社会権
	10	社会権(2)	教育を受ける権利
	11	立法・行政	国会と内閣
	12	司法	裁判所・違憲審査制
	13	地方自治(1)	地方自治
	14	地方自治(2)	地方自治
	15	全体のまとめ	全体を振り返り重要なポイントを確認する

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	筆記試験	問題の正答率	70%
	課題・レポート・提出物	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか	10%
	授業参加態度	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する	20%

教科書 参考図書	授業ごとテーマに沿った資料を配布する
準備学習	自分が関心を持ったニュースや話題とそれについての感想をメモしておくこと(発表できるように)
課題等に対するフィードバック方法	添削し返却する。また返却時における講評、解説を行う
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

専門基礎科目

科目名	教育原理 幼2種・保育士（必修）					担当者名	中田麗子
ナンバリング	26Y22A01	授業の種類	講　義	単位数	2	開講時期	1年・①
授 業 内 容	本授業では、「教育とは何か」という根本的な問いから出発し、特に乳幼児期に焦点を当てながら教育を構成する諸要素、教育の理念や歴史、子ども観や教育思想、教育制度や現代的課題を取り上げ、今日の教育・保育の在り方を考える。						
到 達 目 標	・これまで自明と思ってきた教育・保育について問いを持つ姿勢を身に付ける。 ・教育に関する基本的概念や用語を理解し、自分の言葉で説明できる。 ・教育の主要な歴史や思想について理解する。						

授業計画	回	内　　容
	1	「教育原理」の授業概要
	2	教育について考える
	3	教育を構成するものについて考える①遊びと学び
	4	教育を構成するものについて考える②環境
	5	教育を構成するものについて考える③子どもの発達
	6	教育を構成するものについて考える④教育者
	7	教育の理念と歴史①教育の系譜
	8	教育の理念と歴史②子ども観
	9	教育の理念と歴史③教育思想
	10	教育の理念と歴史④教育制度
	11	教育の現代的課題について考える①気になる子ども
	12	教育の現代的課題について考える②幼小接続
	13	教育の現代的課題について考える③グローバル化時代の公教育
	14	グループワークの発表
	15	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業態度	授業ごとのリアクションペーパーを提出できたか	45%
	課題レポート		55%

教科書	福元真由美編『はじめての子ども教育原理』（有斐閣ストゥディア） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
参考図書	適宜指示する
準備学習	適宜指示する
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～２時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	保育原理 保育士（必修）					担当者名	中野　明子
ナンバリング	26YU22A02	授業の種類	講　義	単位数	2	開講時期	1年・①
授業内容	・保育の方法や内容の基礎的考え方を理解する ・現代保育に至るまでの歴史的変遷を理解する ・多様化社会での様々な配慮を理解する ・諸外国の保育の現状を理解する ・保育者としての専門性と質向上の必要性を理解する						
到達目標	・現在の保育の目標、方法、内容、特性や、現在の保育に至るまでの歴史的背景など、保育に関する基本的専門的な知識や考え方を理解する。 ・現代の保育における課題を理解し、自ら解決策を考えようとする意識を持つ。						

授業計画	回	内　　容
	1	授業の目的と概要について
	2	保育の理念と概念について
	3	子どもの最善の利益と子ども家庭福祉
	4	保育の社会的役割と責任について
	5	保育に関する法令と子ども・子育て支援新制度について
	6	保育の実施体系について
	7	保育所保育指針と保育所保育に関する基本原則について
	8	保育における養護について
	9	保育の目標と内容について
	10	保育の環境と方法について
	11	保育の過程とその循環について
	12	保育の思想と歴史について
	13	日本の保育の現状と課題について
	14	諸外国の保育の現状について
	15	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業の振り返り	小テスト、あるいは振り返りレポートの提出	40%
	授業態度	授業への積極的参加、予習復習（反転学習）の励行	20%
	提出物	課題等の内容、時間の順守	20%
	最終テストまたはレポート	定期テストあるいはレポートの評価	30%

教科書	保育原理～はじめて保育の扉をひらくあなたへ～第2版」株式会社みらい 文部科学省　『幼稚園教育要領解説』,厚生労働省　『保育所保育指針解説書』（フレーベル館） 内閣府　文部科学省　厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
参考図書	適宜指示する
準備学習	適宜指示する
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	2時間程度を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	保育者論 幼2種・保育士（必修）					担当者名	中野　明子
ナンバリング	26Y22A03	授業の種類	講　義	単位数	2	開講時期	1年・①
授業内容	今、保育者に求められている倫理観及び資質・能力を概説し、保育者の地位、身分、服務、及び研修の制度を知り、理解を深める。また、連携が必要とされる専門機関や行政組織、制度について等を学び、保育者間で育んでいきたい力（同僚性や実践的能力、保護者支援等）についての学びを深める。						
到達目標	①乳幼児保育教育の意義と保育者の役割を理解する。 ②保育者に求められる資質・能力を理解する。 ③保育者の守るべき服務及び、保育者と専門機関との連携の必要性を理解する。 ④保育者間の連携、協働について理解する。 ⑤保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。						

授業計画	回	内　　容
	1	授業の目的と概要について
	2	公教育の目的と教員の存在意義について
	3	教職の職業的な特徴と教員の役割及び資質について
	4	教員の職務内容と服務上・身分上の義務について
	5	保育者の役割と倫理について
	6	保育士の制度的な位置付けについて
	7	保育者の専門性について
	8	保育士の資質と能力について
	9	養護及び教育の一体的な展開について
	10	家庭との連携と保育者に対する支援について
	11	保育者の連携と協働（職員間及び関係機関等）について
	12	保育者の連携と協働（専門職間及び専門機関）について
	13	保育者の資質向上とキャリア形成について
	14	保育者の資質向上のための研修と学び続ける意味について
	15	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	レポート及び感想文	課題は授業内容に沿い捉えたこと理解を深めた内容について等記述	30%
	授業態度	グループディスカッション等に 意欲を持って参加しているか評価	10%
	試験	筆記試験。保育者の役割等の理解力を問う	60%
			%

教科書	今に生きる保育者論　第4版　　著者名：編集代表　秋田喜代美・中野明子 発行所：株式会社みらい
参考図書	「保育者のための外国人保護者支援の本」かもがわ出版
準備学習	次回のシラバスを確認。教科書および関連する報道等に関心を持ち、授業に臨むこと。
課題等に対するフィードバック方法	授業で課した課題（レポート等）は作成し提出。返却時にコメントを添え、学びに繋げていく。
準備学習（予習・復習等） に必要な時間	1～4時間を奨励します。
その他　留意事項	
実務経験と資格等	福島めばえ幼稚園教諭・横浜市認可保育園園長・福島学院大学短期大学部保育学科にて授業担当。（保育士・幼稚園教諭・保育実習指導者認定）

科目名	保育内容総論 幼2種・保育士（必修）					担当者名	佐竹　貴明
ナンバリング	26Y22A04	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・②
授 業 内 容	１、保育内容とは何かについての理解を深める。 ２、保育の構造、保育や保育内容の歴史について学ぶ。 ３、保育内容の展開と、記録を通して子どもを理解する方法について学ぶ。 ４、さまざまな保育について学ぶ。						
到 達 目 標	１、乳幼児期の子どもと、その育ちについて理解する。 ２、保育内容について、その歴史、計画、展開について理解する。 ３、乳幼児期の子どもを理解する方法を習得する。 ４、保育の様々な形態、方法、連携・接続などについて理解する。						

授業計画	回	内　　容
	1	現代の保育の基本と課題
	2	遊びの中で5領域を見る
	3	個と集団の発達を踏まえた保育
	4	保育内容の歴史的変遷
	5	保育者に求められる役割
	6	現代の保育実践に学ぶ
	7	遊びの中の学び
	8	学びの振り返り　総括的グループワーク

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業の振り返り	コメントペーパー	50%
	提出物		
	授業態度		
	最終テストあるいはレポート	最終レポート	5%

教科書	特になし
参考図書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
準備学習	適宜指示する
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	1～2時間を推奨する
その他　留意事項	【アクティブ・ラーニング】ワークとフィードバックを通して実施する。 Zoom等を用いた遠隔授業を実施します。
実務経験と資格等	

専門基幹科目

科目名	幼児と健康 幼2種・保育士（必修）					担当者名	白金　俊二
ナンバリング	26Y23A01	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・②
授 業 内 容	「健康」とは何かを大きな主題として、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などについての知識を身に付ける。						
到 達 目 標	・幼児の身体的な諸機能の発達や健康課題等について説明できる。 ・幼児の安全な生活とけがや病気の予防について理解ができる。 ・幼児の運動発達の特徴と意義を理解できる。						

授業計画	回	内　　容
	1	健康の定義と乳幼児期の健康課題について
	2	乳幼児期の体の発達的な特徴と乳幼児の生活習慣の形成について
	3	幼児にとっての危険な場所や行動・遊び方について
	4	幼児期のけがの特徴と病気の予防について
	5	乳幼児の安全教育および安全管理について
	6	乳幼児期の運動発達の特徴および多様な動きの獲得と意義について
	7	幼児の日常生活における動きと身体活動のあり方について
	8	乳幼児の健康管理と保育所の役割について

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	筆記試験	正答率	70%
	課題レポート	課題の主旨に沿って適切にまとめられたか	30%

教科書	保育内容 健康　【新版】（北大路書房）
参考図書	幼児期運動指針（文部科学省）幼稚園教育要領解説」（文部科学省）「保育所保育指針解説」（厚生労働省）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省）
準備学習	予め教科書に目を通しておき、分からないことは事前に調べておく
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却をする
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	長野県内の公立小学校・中学校教諭として26年間勤務 地域のスポーツクラブの指導者及び幼児の運動遊び教室の指導者

科目名	幼児と人間関係 幼2種・保育士（必修）					担当者名	高田　俊輔
ナンバリング	26Y23A02	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・②
授 業 内 容	幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景及び現代的課題について解説したうえで、乳児期に育つ人と関わる力の発達や幼児期に育つ人と関わる力の発達について学習する。						
到 達 目 標	自立心や協調性の育ち及び道徳性や規範意識の芽生えと発達について理解できる。						

	回	内　　容
授業計画	1	幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴について
	2	乳児期に育つ人と関わる力の発達について
	3	幼児期に育つ人と関わる力の発達について
	4	自立心の育ちと発達について
	5	協同性の育ちと発達について
	6	道徳性や規範意識の芽生えと発達について
	7	家族や地域のかかわりと育ちについて
	8	まとめディスカッション

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	最終レポート課題	授業全体の内容を理解し、保育・幼児教育への考察を深められていたかを確認する。	100%
			%
			%
			%

教科書	教科書は特に指定しないが、授業内で適宜参考文献を紹介する。
参考図書	『幼稚園教育要領』（平成29年3月文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月厚生労働省） 『新・保育実践を支える　人間関係』成田朋子編　福村出版
準備学習	適宜、『幼稚園教育要領』および『保育所保育指針』を参照することが望ましい。
課題等に対するフィードバック方法	授業の冒頭において、いくつかのミニレポートを匿名で紹介する予定である。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	教員免許状更新講習研修講師（令和3年11月）

科目名	幼児と環境 幼2種・保育士（必修）					担当者名	佐竹貴明
ナンバリング	26Y23A03	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・②
授 業 内 容	・幼児教育における「環境を通した教育」の理念を踏まえ、幼児と環境との関わりや環境構成の基本的な考え方について理解する。 ・遊びや活動を題材に、空間・物・人・ルールなどの要素を分析し、幼児の学びを支える環境の構造について検討する。 ・具体的な遊びや活動（例：ルールのある遊びなど）を通して、幼児の思考や探究を促す環境構成のあり方を演習形式で探究する。						
到 達 目 標	・幼児教育における「環境を通した教育」の考え方を踏まえ、幼児と環境との相互作用について包括的に理解する。 ・幼児の遊びや活動を成立させている空間・物・人・ルールなどの要素を分析し、環境構成の視点から捉えることができる。 ・具体的な遊びや活動を例に、幼児の学びや思考の芽生えを促す環境構成のあり方を構想できる。						

授業計画	回	内　　容
	1	幼児教育における「環境を通した教育」の理念と、幼児と環境との関わりの理解
	2	環境構成の基本的視点と幼児の遊びとの関係
	3	幼児の遊びを支える環境の要素の分析
	4	自然や身近な事物との関わりを促す環境構成の考え方
	5	ルールのある遊びの体験と分析
	6	遊びのルールや条件を変えることによる環境構成の工夫
	7	幼児の学びを促す環境構成の計画（遊びや活動の設計）
	8	環境構成の計画の発表と振り返り（学びの整理・まとめ）

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業の振り返り	コメントペーパー	10%
	提出物	各回で提示するワークシート	60%
	授業態度		10%
	最終テストあるいはレポート	まとめのレポート	20%

教科書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
参考図書	適宜指示する
準備学習	適宜指示する
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1時間～2時間程度を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	幼児と言葉 幼2種（必修）					担当者名	八木　雄一郎
ナンバリング		授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・②
授 業 内 容	人間にとっての言葉の意義や機能と乳幼児の言葉の発達過程について解説したうえで、言葉に対する感覚を豊かにする実践について学習する。						
到 達 目 標	幼児の発達における児童文化財の意義及び児童文化財の知識と活用について理解できる。						

授業計画	回	内　　容
	1	幼児の遊びや生活における領域「言葉」の位置づけについて
	2	言葉の意義と機能について
	3	乳幼児の言葉の発達過程について
	4	言葉の楽しさと美しさについて
	5	言葉の感覚を豊かにする実践について
	6	幼児の発達における児童文化財の意義と種類について
	7	児童文化財の活用について絵本、物語
	8	児童文化財の活用について紙芝居、人形劇

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	小テスト	授業の振り返り	50%
	課題レポート	課題の趣旨を理解し、自身の考えを文章として適切にまとめられているか。	30%
	提出物	課題の趣旨を理解し、求められたものを提出できるか	20%
			%

教科書	特になし
参考図書	授業中に指示する。
準備学習	授業後に課題を出すことがあるので、次時までに取り組んでくること(提出方法などは授業中に指示する)。
課題等に対するフィードバック方法	提出された作文やレポートについては資料化し、受講者全体で共有できるようにする(授業時の教材とする)。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	信州大学教育学部准教授(「子どもと言葉」担当)

科目名	幼児と表現（音楽表現） 選択					担当者名	浅倉　惠子 村椿彬子
ナンバリング	26Y23B05	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・③
授 業 内 容	手遊びを導入として展開する幼児の音楽表現活動の援助法を、実践的に学ぶ。						
到 達 目 標	手遊びを導入とする幼児の音楽表現活動の援助法を身につける。						

授業計画	回	内　　容
	1	手遊びの保育展開法を学ぶ。
	2	手遊びの模擬保育と音楽身体表現遊び（1）
	3	手遊びの模擬保育と音楽身体表現遊び（2）
	4	手遊びの模擬保育と音楽身体表現遊び（3）
	5	手遊びの模擬保育と音楽身体表現遊び（4）
	6	手遊びの模擬保育と音楽身体表現遊び（5）
	7	手遊びの模擬保育と音楽身体表現遊び（6）
	8	手遊びの模擬保育と音楽身体表現遊び（7）

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	平常点評価	授業への取り組み姿勢、音楽表現を評価する	60%
		模擬保育の準備と実施	40%
			%
			%

教科書	『手遊びから音楽身体表現あそびへ一指導案で示した保育の展開例一』浅倉恵子、風詠社、2020年 『ピアノ伴奏こどものうた136』成美堂出版、2023年
参考図書	
準備学習	模擬保育を担当するときは、準備物を工夫し、準備・練習する。
課題等に対するフィードバック方法	模擬保育についてはその都度講評、解説を行う。
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	毎回の授業の復習およびピアノの練習に1～4時間を奨励する。
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	幼児と表現（造形表現） 幼2種・保育士（必修）					担当者名	猪瀬 昌延
ナンバリング	26Y23B06	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1③
授 業 内 容	造形素材や用具の安全で正しい使い方を学び、実践としての造形活動を行う。既存の画材や技法に執着することなく、柔軟的で応用的な造形活動を実践する。子どもの造形表現に対して支援者としての役割を考える。						
到 達 目 標	様々な造形素材や基本的な用具の正しい使い方を学ぶと共に、工夫や自分らしさの発見、さらには身体感覚としての主体的活動の理解ができるようになる。						

授業計画	回	内　　容
	1	幼児の遊びや生活における領域「造形表現」について考える
	2	領域「造形表現」と幼児の発達段階の考察:身体と創造
	3	表現と技法Ⅰ画材の知識（描画材）：色遊びと実践
	4	表現と技法Ⅱ画材の知識（色彩）：色の組み合わせと世界の創出
	5	表現と技法Ⅲ造形の知識（基礎造形）：粘性素材の可能性
	6	表現と技法Ⅳ造形の知識（造形応用）：線から量への展開
	7	表現と技法Ⅴ（表出から表現の展開）：造るものと創られるもの
	8	領域「造形表現」の展開と可能性：まとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	平常点評価	授業への意欲的取り組み姿勢を評価する	50%
	課題提出	創造的な制作と積極性	50%

教科書	「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、 「保育をひらく造形表現」槙英子 萌文書林
参考図書	随時紹介する。
準備学習	あらかじめ教科書等に目を通し、予習をしておくこと。
課題等に対するフィードバック方法	課題の提出時に講評会を行う。
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	毎回の授業の復習に1～2時間を奨励する。
その他　留意事項	・各授業において指定する用具や素材を各自準備すること。なお指定した用具等を当日に忘れた場合は、欠席扱いになることがある。 ・課題に応じて材料費が必要となる事がある。 ・その他、必要に応じて周知する
実務経験と資格等	現職:信州大学教育学部准教授　※中学校・高等学校(美術・工芸)専修免許状を所持し教員実務経験をもつ。

科目名	教育心理学 幼2種（必修）					担当者名	三和　秀平
ナンバリング	26Y23B07	授業の種類	講　義	単位数	2	開講時期	1年・④
授 業 内 容	心身の発達の過程と特徴及び発達の概念と教育における発達理解の意義、様々な学習形態と概念や過程を解説したうえで、主体的な学習を支える動機づけや集団づくりと学習評価のあり方及び指導の基礎を学習する。						
到 達 目 標	主体的な学習活動を支える指導と考え方について理解している。						

授業計画	回	内　　容
	1	授業の目的と概要について
	2	心身の発達の過程と特徴について
	3	心身の発達に対する外的及び内的要因について
	4	外的要因と内的要因の相互作用について
	5	発達の概念と教育における発達理解の意義について
	6	乳幼児期から青年期における運動発達について
	7	乳幼児期から青年期における認知発達について
	8	乳幼児期から青年期における社会性の発達について
	9	発達を踏まえた学習を支える指導について
	10	様々な学習形態と概念及び過程について
	11	主体的な学習活動を支える動機づけについて
	12	主体的な学習活動を支える集団づくりについて
	13	主体的な学習活動を支える学習評価のあり方について
	14	主体的な学習活動を支える指導と考え方について
	15	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	参加態度、課題	授業への参加意欲，取り組みの姿勢を評価する。	30%
	レポート	課題の主旨を理解し，適切にまとめられ提出されているかを評価する。	70%

教科書	教育心理学（やさしく学ぶ教職課程），児玉 佳一（編集），学文社
参考図書	随時紹介する。
準備学習	授業に提示する課題をその都度きちんと理解しわからない箇所は調べておき，あらかじめ教科書に目を通し，予習をしておくこと。
課題等に対するフィードバック方法	次回の授業でフィードバックを行う。

準備学習(予習・復習等) に必要な時間	１～4時間を推奨する
その他　留意事項	原則として紙の資料の配布は行わず，オンライン上で資料を配布する。 オンラインで作業することもあるため，パソコンを持参することが望ましい。
実務経験と資格等	信州大学教育学部准教授，博士（心理学）

科目名	保育の心理学 保育士（必修）					担当者名	中野　明子
ナンバリング	26Y23B08	授業の種類	講　義	単位数	2	開講時期	1年・③
授 業 内 容	身体発達、認知、言語、情動、社会性等の発達過程やその基盤にある発達のしくみや理論、発達の遅れや偏りに関する基本的な知識を得るとともに、子どもの発達をうながす人との関係や保育環境について学ぶ。						
到 達 目 標	保育実践に関わる発達理論等の基礎的な知識を習得する。 発達を捉える視点を獲得し、子どもの学びを支える保育実践について理解を深める。 乳幼児期の子どもの学びが人との関係を基盤として環境を通して行われることを理解する。						

授業計画	回	内　　容
	1	授業の目的と概要について
	2	子どもの発達を理解する意義について
	3	子どもの発達の特徴と環境について
	4	発達理解の現代的な視点について
	5	発達支援の総合的な視点について
	6	乳幼児期の社会情動的発達について
	7	身体的機能と運動機能の発達について
	8	認知の発達過程について
	9	言語の発達傾向について
	10	発達に遅れや偏りがある子どもの理解と支援について
	11	発達段階ごとの特徴と課題について
	12	乳幼児期の学びに関する理論について
	13	乳幼児期の学びの過程と特性について
	14	乳幼児期の学びを支える保育実践について
	15	授業のまとめ（担当：全教員）

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業への積極的な取り組み	授業への積極的な取り組み	30%
	課題	授業の中での課題	20%
	筆記試験	問題の正答率	50%

教科書	教科書は使用しない
参考図書	授業中に紹介する
準備学習	事前に提示された課題を授業の開始前までに行っておくこと
課題等に対するフィードバック方法	授業中に解説を行うとともに、提出された課題の返却時にはフィードバックを行う
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	特別支援教育・保育論Ⅰ 幼2種・保育士（必修）					担当者名	奥村　真衣子
ナンバリング	26Y23B09	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・④
授業内容	・現代社会における「特別な支援を必要とする子ども」について学ぶ ・特別な支援を必要とする子どもの実態について、様々な事例から考える ・特別な支援を必要とする子どもの支援方法について学ぶ ・特別な支援を必要とする子どもの保護者へのかかわりについて学ぶ ・特別な支援における他機関との連携について学ぶ						
到達目標	・特別な支援を必要とする子どもの教育体制を理解する ・特別な支援を必要とする子どもの支援の方法を理解する ・特別な支援を必要をする子どもの家族に対する支援方法および地域の専門機関との連携方法を理解する						

授業計画	回	内　　容
	1	特別支援教育に関する制度の理念と仕組み及び歴史について
	2	地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解
	3	特別の支援を必要とする幼児の心身の発達と学習の過程について
	4	特別の支援を必要とする幼児に対する支援の方法について
	5	通級指導及び自立支援の教育課程上の位置づけと内容について
	6	個別の指導計画及び教育支援計画の作成の意義と方法について
	7	保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援
	8	地域の専門機関との連携、小学校等との連携

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業の振り返り	授業の振り返り	30%
	授業態度	授業への積極的参加、予習復習（反転授業）の励行	20%
	最終課題	（テストあるいはレポート）	50%

教科書	公益財団法人児童育成協会監修，西村重稀・水田敏郎編集『障害児保育第2版』（中央法規出版）
参考図書	杉中拓央・呉栽喜・松浦孝明編集『教職をめざす人のための特別支援教育 基礎から学べる子どもの理解と支援』（福村出版）
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1時間～2時間程度を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	臨床発達心理士・公認心理師として、乳幼児健診における心理相談員、就学前療育機関における療育指導員、小学校・中学校・特別支援学校におけるニーズのある子どもへのコンサルテーション支援に従事。

科目名	保育・教育課程論 必修					担当者名	杉浦　英樹
ナンバリング	26Y23A10	授業の種類	講　義	単位数	2	開講時期	1年・③④
授業内容	就学前保育・教育の意義と施設の役割について確かめるとともに，幼稚園教育要領と保育所保育指針保育を用いて保育・教育の基本，ねらい及び内容等に関する基本的知識を習得する。教育課程・指導計画の意義について理解し，実践の振り返りを介して保育・教育の質を高める必要性について学ぶ。						
到達目標	幼稚園教育要領と保育所保育指針に記された内容を理解する。また，指導計画の作成にあたっては園の一人ひとりの幼児や遊び・活動についての深い理解を基盤として「具体的に書く」ことが求められることから，それができるようにするための実際的な視点と方法を学び，今後の実習等で活用できるようにする。						

授業計画	回	
	1	幼稚園教育の意義と幼稚園教育要領の法制上の位置
	2	幼稚園教育の基本／遊びを通した総合的な指導
	3	保育の目的・目標・ねらいと「子どもの姿」
	4	教育課程の役割と編成等，カリキュラム・マネジメント
	5	教育計画の構造，作成上の基本的事項と留意事項／「具体的に書く」とは①
	6	幼児理解に基づいた評価，特別な配慮を必要とする幼児への指導／「具体的に書く」とは②
	7	５領域のねらい及び内容，幼稚園における預かり保育と子育て支援／「具体的に書く」とは③
	8	幼稚園教育要領のまとめ／「具体的に書く」実践（1）
	9	保育所保育の意義と保育所保育指針の法制上の位置，基本原則／保育を必要とする事由
	10	養護に関する基本的事項，保育計画の作成と評価／「養護」と「教育」
	11	保育の内容① 乳児保育に関わるねらい及び内容
	12	保育の内容② １歳以上３歳未満児の保育，３歳以上児の保育に関わるねらい及び内容
	13	健康及び安全／健康支援，食育の推進，衛生管理・事故防止，災害への備えと対応
	14	保育所における子育て支援，職員の資質向上・研修
	15	保育所保育指針のまとめ／「具体的に書く」実践（2）

成績評価方法と基準	評価方法	評価基準	割合
	授業態度	授業への積極的な取り組み	20%
	課題	授業中の課題（提出された文章の内容）	30%
	筆記試験	幼稚園教育要領と保育所保育指針の理解ならびに記述問題の回答内容	50%
			100%

教科書	河邉貴子著『新３法令対応 幼児教育・保育カリキュラム論』東京書籍
参考図書	杉浦英樹編『遊び込む子どもを支える幼稚園カリキュラム：未来の幼児教育・保育のために』学文社
準備学習	授業内容を復習し，配布した確認問題とその回答は必ずファイリングしておくこと
課題等に対するフィードバック方法	提出された課題を返却する場合，授業中に解説を行う
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	時間は特に指定しないが，自身にとって最大限の成果が得られる準備学習を推奨する
その他　留意事項	指定された保育施設における観察実習の体験を大切にしてほしい
実務経験と資格等	

科目名	幼児理解 幼2種（必修）					担当者名	上原　貴夫
ナンバリング	26Y23B11	授業の種類	講　義	単位数	1	開講時期	1年・③
授 業 内 容	幼児理解の意義と発達や学びを捉える原理について解説し、幼児理解のための観察や記録の意義や目的に応じた観察法、幼児の生活や遊びの実態に即して、対応方法について学習する。						
到 達 目 標	幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずきと、その要因を把握するための原理や対応の方法について理解できる。						

授業計画	回	内　　容
	1	幼児理解の意義と発達や学びの捉え方について
	2	幼児理解を深める保育者の基本的姿勢について
	3	幼児理解の方法（１）観察と記録の意義と目的
	4	幼児理解の方法（２）目的に応じた観察法
	5	幼児理解の方法（３）省察と評価の意義と目的
	6	幼児理解の方法（４）個と集団の関係を捉える意義と方法
	7	幼児理解の方法（５）幼児の葛藤やつまずきの理解と支援
	8	幼児理解の方法（６）保護者の支援と家庭支援

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	課題提出	課題について主旨を的確に理解し、適切な方法で表現できて提出できていること。	20%
	レポート	課題について調べて適切にまとめられて提出できていること。	20%
	試験	課題の正答率	60%

教科書	教科書「子ども理解と観察」（大久保・梶田編著　ななみ書房）を使用。他に授業中に適宜資料を配付する。
参考図書	平成29告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
準備学習	新聞記事や書籍などを活用して幼児についての興味や関心を高める。
課題等に対するフィードバック方法	講義の中で取り上げていく。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～４時間を推奨する
その他　留意事項	学習や研究、活動に主体的に取り組むこと。
実務経験と資格等	博士(教育学)。長野県短期大学名誉教授。第一種幼稚園教諭、保育士、第一種小学校教諭、学校心理士、上級教育カウンセラー

科目名	社会的養護Ⅰ 保育士（必修）					担当者名	比田井　友香
ナンバリング	26Y23A12	授業の種類	講　義	単位数	2	開講時期	２年・②
授業内容	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について概説したうえで、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の原則及び社会的養護における保育士等の倫理と責務について解説する。そのうえで、社会的養護の制度や法体系と仕組みや実施体系及び社会的対象や形態と関係する専門職等、社会的養護に関する社会的状況や課題について学習する。						
到達目標	社会的養護の制度や法体系と仕組みや実施体系及び社会的対象や形態と関係する専門職等、その社会的状況や課題について理解できる。						

授業計画	回	内　　容
	1	授業の目的と概要について
	2	社会的養護の理念と概念及び歴史的変遷について
	3	子どもの人権擁護と社会的養護について
	4	社会的養護の基本原則について
	5	社会的養護における保育士等の倫理と責務について
	6	社会的養護の制度と法体系について
	7	社会的養護の仕組みと実施体系について
	8	社会的養護の対象について
	9	家庭養護と施設養護について
	10	社会的養護に関わる専門職について
	11	社会的養護に関する社会的状況について
	12	施設等の運営管理について
	13	被措置児童等の虐待防止について
	14	社会的養護と地域福祉について
	15	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業姿勢	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価	30%
	中間レポート	テーマに基づき問題意識を持ち、自分の考えを述べられているかを中心に評価	30%
	試験	問題の正答率	40%

教科書	『みらい×子どもの福祉ブックス　社会的養護Ⅰ　第2版』（2025年3月1日） 株式会社みらい
参考図書	授業時に適宜案内する
準備学習	事前に教科書に目を通すなど、予習をしておくことを推奨する
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	１～4時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	社会福祉士・精神保健福祉士

科目名	乳児保育Ⅰ 保育士（必修）					担当者名	橋本　佳美
ナンバリング	26Y23B13	授業の種類	講　義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	乳児保育の意義と目的や歴史的変遷及び乳児保育の役割と機能について概説する。また、保育所や乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について考察する。そのうえで、３歳未満児の発育や発達を踏まえた保育の内容と援助や配慮及び運営体制について学ぶとともに、乳児保育における職員間の連携・協働と保護者及び自治体や地域の関係機関等との連携・協働について学習する。						
到達目標	①乳児保育はなぜ必要か、乳児保育における保育士の役割について自分の意見を述べることができる。 ②乳児保育における職員間の連携・協働と保護者及び自治体や地域の関係機関等との連携・協働の意味を説明できる。						

授業計画	回	内　　容
	1	①授業の目的と概要について　乳児保育の意義・目的と役割
	2	②0歳児の発育・発達１　身体・生理的機能の発育・発達 乳児とはどのようなヒトか　　乳児期前期の子どもの発育発達と保育
	3	③0歳児の発育・発達２ 乳児期後期の子どもの生活と必要な保育　基本的生活習慣、生活リズム
	4	④１−３未満児の発育・発達1　保育　保育所保育指針における乳児保育のポイント
	5	⑤1−3歳児の発育・発達2　　生活リズム：睡眠、食事、排泄、遊び
	6	⑥乳児保育における生活１ 睡眠と生活リズム、食事　保育と生活環境　①−⑤の復習
	7	⑦乳児保育における生活２、保育士による援助やかかわり１　発達の促進
	8	⑧乳児保育における保育士等による援助やかかわり、配慮、職員間の連携・協働
	9	⑨３歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について 保育所及び保育所以外の児童福祉施設における乳児保育
	10	⑩乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる現状と課題について
	11	⑪３歳以上児の保育に移行する時期の保育について 情報の共有と記録の必要性
	12	⑫乳児保育における記録の必要性 連絡帳　保育計画
	13	⑬乳児保育における連携と協働 家族、他機関との連携
	14	⑭乳児保育における養護と教育の考え方 子どもの最善の利益をまもるために
	15	⑮授業のまとめ　乳児保育の必要性　保育者に求められる役割

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	課題提出	課題が自分の言葉で考察されて記述できている	30%
	試験	問題の正答率	60%
	授業参加態度	発言したり提案したりできていたか	10%

教科書	志村聡子編著(2022). 初めて学ぶ乳児保育　第四版. 同文書院
参考図書	①三池輝久他　赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第1巻 睡眠・食事・生活の基本 ②林万リ(2011). 優しく学ぶからだの発達. 全障研出版部 ビデオ教材：①赤ちゃんの1年（0−6か月）、赤ちゃんの1年（7か月以降） ②サクランボ坊や　1から５

準備学習	毎回提示する課題を学習すること。テキストの該当箇所を読んで授業に参加すること
課題等に対するフィードバック方法	提出された課題はその次の会までにコメントして返却する。 その授業の最後に質問を受ける
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	1～4時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	資格：看護師、助産師 実務経験：産科経験7年間、NICU,小児科経験6年間、障害児施設5年間の実務経験あり

専門展開科目

科目名	保育内容指導法（健康） 幼2種・保育士（必修）					担当者名	白金　俊二
ナンバリング	26Y24B01	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容	幼児にとっての基本的な生活習慣の形成、怪我や病気の予防や安全について、運動遊びの意義や保育の実際について理解し、子どもが健やかに成長するための保育者の役割ついて考え、保育を実践する力を身に付ける。						
到達目標	・幼児の心情や動き等を視野に入れた保育構想が説明できる。 ・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・模擬保育とその振り返りを通して保育を改善することができる。						

授業計画	回	内容
	1	幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらいと内容について　保育所保育指針に示された乳児保育における視点について
	2	領域「健康」における基本的な生活習慣の獲得の指導について
	3	領域「健康」の具体的な保育（運動遊び）を想定した指導案の構造について
	4	領域「健康」の模擬保育（運動遊び）について
	5	領域「健康」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について
	6	領域「健康」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について
	7	領域「健康」における安全教育について
	8	領域「健康」における「食育」について

成績評価方法と基準	評価方法	評価基準	割合
	課題レポート	課題の主旨に沿って適切にまとめられたか	50%
	成果物	指導案など成果物が適切であるか	50%

教科書	保育内容の指導法健康（学術文芸出版）
参考図書	幼児期運動指針（文部科学省）幼稚園教育要領解説」（文部科学省）「保育所保育指針解説」（厚生労働省）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省）
準備学習	予め教科書に目を通しておき、分からないことは事前に調べておく
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却をする
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	長野県内の公立小学校・中学校教諭として26年間勤務 地域のスポーツクラブの指導者及び幼児の運動遊び教室の指導者

科目名	保育内容指導法（人間関係） 幼2種（必修）					担当者名	山口　美和
ナンバリング	26Y24B02	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・③
授 業 内 容	領域「人間関係」のねらいと内容及び保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について解説し、領域「人間関係」の特性を考慮した情報機器や教材の活用法と指導案の作成を学習する。						
到 達 目 標	具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を理解することができる。						

	回	内　　容
授業計画	1	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらいと内容について
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について
	3	領域「人間関係」の指導上の留意点と評価の考え方について
	4	領域「人間関係」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について
	5	領域「人間関係」における保育の構想と指導案の構造について
	6	領域「人間関係」の具体的な保育を想定した指導案の作成について
	7	領域「人間関係」の模擬保育について
	8	領域「人間関係」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	参加態度	授業への参加態度	20%
	リアクションペーパー	授業の内容を理解し、適切にまとめられているか	20%
	最終レポート	課題を理解し、論旨が明確に論じられているか	60%
			%

教科書	『平成29年度告示幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（チャイルド本社）　岸井慶子・酒井真由子編著『コンパス保育内容人間関係』（建帛社）
参考図書	授業時に適宜紹介します。
準備学習	幼稚園教育要領・保育所保育指針等に目を通しておくこと
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～２時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	保育内容指導法（環境） 幼2種・保育士（必修）					担当者名	佐竹貴明
ナンバリング	26Y24B03	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・④
授業内容	・現代の幼児を取り巻く環境や、幼児と環境とのかかわりについて専門的に理解する。 ・幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいと内容について理解を深める。 ・幼児の学びの過程を踏まえ、具体的な活動場面を想定しながら保育の構想力と指導法を身につける。						
到達目標	・幼稚園教育要領等に定められた幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。 ・幼児の発達や学びの過程を理解し、領域環境に関わる具体的な指導過程を想定したり体験しながら保育の構想及び指導方法を身につける。						

授業計画	回	内容
	1	幼児教育の基本と保育内容「環境」（領域「環境」のねらいと内容）
	2	幼児期にふさわしい環境と環境構成の意義
	3	文字・数・図形に親しむ保育の実際
	4	領域「環境」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について
	5	思考力の芽生えを促す遊びの理解と実践
	6	模擬保育計画の作成
	7	模擬保育の実施
	8	模擬保育の振り返り・まとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評価基準	割合
	小テスト	授業の振り返り	40%
	授業態度		10%
	提出物		20%
	最終課題	テストあるいはレポート	30%

教科書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）読み解く　障害児保育』（萌文書林）
参考図書	適宜指示する
準備学習	適宜指示する
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1時間～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	保育内容指導法（言葉） 幼2種（必修）					担当者名	渡邉　望
ナンバリング	26Y24B04	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容	幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいと内容及び保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について解説したうえで、領域「言葉」の指導上の留意点と評価の考え方について学習する。そのうえで、領域「言葉」の特性を考慮した情報機器や教材の活用法と指導案の構成や指導案の作成、具体的な指導場面を想定して保育を構想する。						
到達目標	具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法が分かる。						

授業計画	回	内容
	1	幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいと内容について
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について
	3	領域「言葉」の指導上の留意点と評価の考え方について
	4	領域「言葉」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について
	5	領域「言葉」における保育の構想と指導案の構造について
	6	領域「言葉」の具体的な保育を想定した指導案の作成について
	7	領域「言葉」の模擬保育について
	8	領域「言葉」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について

成績評価方法と基準	評価方法	評価基準	割合
	確認テスト （筆記試験）	ことばの発達と保育者のかかわりについて４０点満点で筆記試験を行う。授業内容を理解しているかで評価する。	40%
	指導案作成・模擬保育	指導案作成（20）子どもの姿、留意点が記され、実際に保育が可能か否か、 模擬保育（10）声の大きさ、進め方、 振り返り（10）自己評価、今後の課題、 以上の観点で評価し配点する。	40%
	授業参加態度	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する。	20%
			%

教科書	『保育内容（言葉）』同文書院　太田光洋編著　2021年
参考図書	『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省） 『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』（以上、厚生労働省）
準備学習	これまでに学修した、保育の基本や子どもの育ちなどについて、理解していることを前提に授業を進めます。2学期までの学びを確認したうえで受講してください。
課題等に対するフィードバック方法	・質問などは授業中、授業の前後で受け付けます。 ・即応が必要なものはその時に対応しますが、基本的には次回の講義時に質問内容も含め全体に周知します。 ・各課題、確認テストの振り返りは授業内で行います。

準備学習(予習・復習等) に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	①毎回の授業の内容をプリントやテキストで振り返り、理解を深めてください。 ②絵本などの児童文化財は「知っている」だけではなく、子ども達の前で「できる」ことが大切です。授業で紹介された内容を参考に各自で取り組んでください。
実務経験と資格等	実務経験:保育所・幼稚園での保育経験10年、保育者養成校での教員経験17年 資格等:幼稚園教諭免許・保育士資格

科目名	保育内容指導法（音楽表現） 選択					担当者名	浅倉　惠子 村椿彬子
ナンバリング	26Y24B05	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1年・④
授 業 内 容	「幼児と表現（音楽表現）」における学びを継続しながら、幼稚園教育要領や保育所保育指針を理解し、指導案作成、振り返りをおこなう。						
到 達 目 標	音楽表現の保育の展開を指導案作成に結び、音楽表現指導法について理解する。						

	回	内　　容
授業計画	1	手遊びの模擬保育、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいと内容について
	2	手遊びの模擬保育、保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について
	3	手遊びの模擬保育、領域「音楽表現」の指導上の留意点と評価の考え方について
	4	手遊びの模擬保育、領域「音楽表現」における保育の構想と指導案の構造について（1）
	5	手遊びの模擬保育、領域「音楽表現」の具体的な保育を想定した指導案の作成について（2）
	6	手遊びの模擬保育、領域「音楽表現」の具体的な保育を想定した指導案の作成について（3）
	7	手遊びの模擬保育、指導案の検討（1）
	8	手遊びの模擬保育、指導案の検討（2）

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	平常点評価	授業への取り組み姿勢、模擬保育等を評価する	50%
	筆記試験	指導案作成を評価する	50%
			%
			%

教科書	『手遊びから音楽身体表現あそびへ一指導案で示した保育の展開例一』浅倉恵子、風詠社、2020年 『ピアノ伴奏こどものうた136』成美堂出版、2023年
参考図書	
準備学習	模擬保育の準備、ピアノの練習をおこなう。
課題等に対するフィードバック方法	試験前に、作成した指導案を添削し返却する。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	毎回の授業の復習および模擬保育の準備、ピアノの練習等、1～2時間を奨励する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	保育内容指導法（造形表現） 幼2種・保育士（必修）					担当者名	猪瀬 昌延
ナンバリング	26Y24B06	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	1④
授 業 内 容	子どもの「造形表現」に関する基礎的な事項について理解をする。発達段階に応じた「造形表現」を考察し、支援者としての基本的知識を理解する。造形活動の実践を行いながら保育計画や指導案を作成し授業構想を行う。						
到 達 目 標	子どもの「造形表現」に関する基礎的な理解をするとともに、支援者としての基本的知識と技能を身に付け、発展的な思考と実践者としての素養を身に付ける。						

授業計画	回	内　　容
	1	幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいと内容について
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について
	3	幼児期における身体と表現についての考察
	4	教材研究Ⅰ：発達段階と「造形表現」について考える　（レポート課題）
	5	教材研究Ⅱ：発達段階と「造形表現」について考える情報機器の活用と指導案の考察
	6	教材研究Ⅲ：発達段階と「造形表現」について考える指導案の構想（グループワーク）
	7	教材研究Ⅳ：模擬授業と討議　（課題提出）（グループワーク）
	8	領域「造形表現」の可能性と今後の課題（レポート課題）

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	平常点評価	授業への取り組み姿勢を評価する	60%
	レポート	趣旨を理解し、適切にまとめて提出されたか	30%
	課題提出	教材研究に対して積極的に取り組んだか	30%

教科書	「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「表現指導法」上野奈初美 編著 萌文書林、「保育連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベンス館、「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベンス館
参考図書	随時紹介する。
準備学習	あらかじめ教科書等に目を通し、予習をしておくこと。
課題等に対するフィードバック方法	課題の提出時等に講評会を行う。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	毎回の授業の復習に1～2時間を奨励する。
その他　留意事項	・各授業において指定する用具や素材を各自準備すること。なお指定した用具等を当日に忘れた場合は、欠席扱いになることがある。 ・課題に応じて材料費が必要となる事がある。 ・その他、必要に応じて周知する
実務経験と資格等	現職:信州大学教育学部准教授　※中学校・高等学校(美術・工芸)専修免許状を所持し教員実務経験をもつ。

科目名	教育制度論 幼教2種（必修）					担当者名	大佐古　紀雄
ナンバリング	26Y24C07	授業の種類	講　義	単位数	1	開講時期	２年・①
授 業 内 容	本授業は、教育の理念と制度的基盤を学びます。憲法・教育基本法等の基礎から、幼稚園・保育所・認定こども園の制度比較、教員の免許・服務、教育行政までを網羅します。保育者としての専門性を高めるため、教育制度の現状と課題を理解し、自身の職務を法制度や社会的文脈の中に位置づける力を養うことを目的とします。						
到 達 目 標	①日本国憲法や教育基本法における教育の理念と、それを具現化する教育制度の仕組みを理解している。②学校教育制度、特に幼児教育に関連する幼稚園・認定こども園の制度的法的根拠を理解している。③教育行政や学校経営の仕組みを知り、公教育の担い手としての教員の役割と身分について理解を深めている。						

授業計画	回	内　　容
	1	教育を受ける権利と教育制度の基盤
	2	教育基本法と教育の目的
	3	学校教育法と学校体系
	4	幼児教育の制度的特質（幼稚園と保育所の制度比較）
	5	幼保連携型認定こども園と新しい教育制度
	6	教育行政と教育委員会制度
	7	教員免許制度と教員の職務・身分
	8	教育制度の現代的課題とこれからの学校経営

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業参加態度(提出物含む)		30%
	試験（筆記）		70%

教科書	適宜提示する。
参考図書	適宜提示する。
準備学習	適宜提示する。
課題等に対するフィードバック方法	授業時に指示する。レポート返却時にコメントを記載し返却する
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	これまで様々に関わってきた調査研究や委託研究などを通じて得られた教育制度に関する知見をもとに、幼児教育・保育をめぐるさまざまな制度を理解するための視野を培う授業を行う。

科目名	特別支援教育・保育論Ⅱ ［保育士必修］					担当者名	宮地　弘一郎
ナンバリング	26Y24C08	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・②
授　業　内　容	障害の概念と障害児保育の歴史的変遷について解説し、障害児と特別な配慮を要する子どもの保育の実際及び現状と課題について考察する。視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児・肢体不自由児・知的障害児・発達障害児・重症心身障害児・医療的ケア児の理解と発達援助について学習する。						
到　達　目　標	障害児を支える理念及び障害児や特別な配慮を要する子どもの理解と、保育における発達の援助や過程への支援並びに障害児保育の現状と課題について理解している。						

授業計画	回	タイトル	内　　容
	1	障害と障害児保育	障害の概念／障害児保育の歴史的変遷
	2	障害のある子の理解と発達支援（１）	視覚障害児／聴覚障害児の理解と援助について
	3	障害のある子の理解と発達支援（２）	肢体不自由児／知的障害児の理解と援助について
	4	障害のある子の理解と発達支援（３）	発達障害児／言語障害児の理解と援助について
	5	障害のある子の理解と発達支援（４）	重症心身障害児／医療的ケア児
	6	特別なニーズのある子どもの保育（１）	ICFモデルからみた子ども理解／子どもの健康と安全
	7	特別なニーズのある子どもの保育（２）	指導計画と支援計画
	8	特別なニーズのある子どもの保育（３）	教育と福祉における現状と課題を考える
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	コメントカード	授業を理解し、その概要を適切にまとめ、感想・意見を整理できたか	20%
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめ提出できたか	30%
	試験	問題の正答率	50%

教科書 参考図書	児童育成協会監修『障害児保育（新・基本保育シリーズ17）第2版』2026年，中央法規
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。
課題等に対するフィードバック方法	返却時にコメント、解説を行う。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する
その他　　留意事項	第2、3回では障害疑似体験を行う。下記を持参すること。 ハサミ／セロテープ／折紙2枚／ペットボトル飲料／市販のお菓子の箱（中身入りでよい）
実務経験と資格等	実務）医療機関、特別支援学校、福祉事業所等での重症心身障害児、医療的ケア児、入院児等の療育研究、学校教員や病棟保育士の指導に従事。資格）公認心理師・養護学校教員専修免許

科目名	教育方法論 幼2種（必修）					担当者名	森下　孟
ナンバリング	26Y24C09	授業の種類	講　義	単位数	1	開講時期	２年・②
授 業 内 容	これからの社会を担うこどもたちに求められる資質や能力を育成するために必要な教育の方法やあり方、育みたい資質や能力と幼児理解に基づいた評価の考え方について概説したうえで、情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成や活用について学習する。						
到 達 目 標	情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成や活用ができる。						

授業計画	回	内　　容
	1	これからの子どもたちに育みたい資質・能力
	2	保育を行ううえでの基礎的な指導技術
	3	主体的・対話的で深い学びを導く教材研究
	4	学びが見える評価方法
	5	指導案の構成と作成
	6	情報機器を活用した教材等の作成
	7	情報活用能力を育成するための指導法
	8	まとめ・確認試験

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	レポート等課題	毎回のレポート等課題	50%
	確認試験	確認試験あるいはレポートの評価	50%
			%
			%

教科書	・幼稚園教育要領，文部科学省 ・教育の方法と技術 Ver.2：IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び，稲垣忠（編著），北大路書房
参考図書	適宜指示する
準備学習	適宜指示する
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	教育相談 幼2種（必修）					担当者名	中山智哉
ナンバリング	26Y24B10	授業の種類	講　義	単位数	2	開講時期	１年・④
授 業 内 容	本講義では臨床心理学諸理論を基盤としつつ、保育挙育現場における幼児・児童・思春期・青年期前期の子どもたちの発達とそれに伴う心理的諸問題を取り扱う。子どもたちのアセスメント、心理的諸問題の発生機序、問題に対応するためのカウンセリングスキル、チームでの対応方法などを講義と演習を通して学習し、実例を通して対応を学んでいく。						
到 達 目 標	心理学諸理論を基盤とした子ども理解と困難状況のアセスメントができる。子ども・保護者との円滑な面談や適切な対応を身につける。						

授業計画	回	内　　容
	1	教育相談の意義、現在の教育現場の課題、相手を理解するとは
	2	幼児期から青年期までの発達と子ども理解
	3	幼児期から青年期までのメンタルヘルス
	4	教育相談に関連するカウンセリング理論を学ぶ
	5	傾聴のための技法、言い換え、繰り返し、要約、解釈など
	6	ロールプレイを通してカウンセリングを学ぶ
	7	教育相談におけるアセスメント①
	8	教育相談におけるアセスメント②
	9	発達障がいの理解と支援　子どもへの支援
	10	発達障がいの理解と支援　家庭への支援
	11	事例による演習①　不登園・不登校・いじめ
	12	事例による演習②　親子関係・虐待事例
	13	事例による演習③　保育現場における相談支援の実際
	14	職員間連携　外部との連携
	15	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか	70%
	授業内ワーク	ワークでの取り組み態度・姿勢	30%

教科書	特になし。
参考図書	特になし。
準備学習	配布レジュメに目を通し、予習をしておくこと。

課題等に対するフィードバック方法	返却時にコメント、解説を行う。
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	１～4時間を推奨する
その他　留意事項	ワークブック等を活用して理解を深める。
実務経験と資格等	臨床心理士として、幼稚園、小中学校等で教育相談に従事してきた。

科目名	子ども家庭福祉 保育士（必修）					担当者名	中野　明子 吉澤　惠子 （オムニバス）
ナンバリング	26Y24B11	授業の種類	講　義	単位数	2	開講時期	1年・③
授業内容	・子どもの発達を考える上で、家庭福祉がいかに重要かについて学ぶ ・児童の権利について考える ・多様な保育（福祉）ニーズについて学ぶ						
到達目標	・子どもの権利が家庭・園・地域の中でどのように守られていくべきかを説明することができる ・現代社会における多様な現状（少子化への対応、貧困家庭、虐待など）を理解し、支援方法を考えることができる						

授業計画	回	内　　容
	1	授業の目的と概要について　（担当：中野明子）
	2	子ども家庭福祉の理念と概要　（担当：中野明子）
	3	子どもの人権擁護の歴史的変遷について（担当：中野明子）
	4	児童の権利に関する条約の変遷と理解　（担当：中野明子）
	5	日本の教育の現場における子どもの権利について（担当：中野明子）
	6	子ども家庭福祉の制度と実施体系について（担当：吉澤恵子）
	7	児童福祉施設と子ども家庭福祉の専門職について（担当：吉澤恵子）
	8	少子化と地域子育て支援及び母子保健について（担当：吉澤恵子）
	9	「子どもの権利ノート」の意義を理解する　（担当：中野明子）
	10	子ども虐待及びＤＶとその防止について（担当：吉澤恵子）
	11	多様な保育ニーズへの対応について　（担当：中野明子）
	12	障がいのある子どもや保護者への対応について　（担当：中野明子）
	13	貧困家庭、外国につながる子どもとその家庭への対応　（担当：中野明子）
	14	海外の子育て支援の実際と現状　（担当：中野明子）
	15	授業のまとめ　（担当：中野明子）

成績評価方法	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業時レポート	授業の振り返り	30%
	提出物	課題の内容を評価する	20%
	授業態度	授業への積極的参加、予習復習（反転学習）の遂行	10%
	最終課題	レポート	40%

教科書	子ども家庭福祉　第２版　中央法規出版
参考図書	適宜指示する
準備学習	適宜指示する
課題等に対するフィー	適宜指示する
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～4時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	中野：幼稚園教諭・横浜市認可保育園園長を経て、福島学院大学短期大学部保育学科にて16年間、授業及び保育実習指導担当。（保育士資格・幼稚園教諭二種免許状・保育実習指導者認定修了）令和6年度より長野市おひざで絵本事業絵本選定委員 吉澤：行政保健師として保健センターや子育て・子育ち支援課、発達相談センターでの勤務経験、ならびに養護教諭として学校行事等への従事経験あり。

科目名	社会福祉 必修					担当者名	比田井 友香
ナンバリング	26Y24B12	授業の種類	講　義	単位数	2	開講時期	1年・①
授業内容	本授業では、社会福祉全般について体系的に学び、基礎的な知識の習得を図るとともに、保育の現場にも活かすことのできるソーシャルワークの視点および技術の理解を深める。特に、子どもを取り巻く環境に着目し、多角的に捉える視点を養う。さらに、事例や身近な課題にも触れながら、学びを自分自身の問題として捉え、理解を深めていく。						
到達目標	本授業を通して、社会福祉に関する基礎的な知識を理解し、保育や対人援助にかかわる現場において求められるソーシャルワークの視点および技術の基礎を身につける。また、子どもを取り巻く環境や社会的課題について多角的に捉え、視野を広げるとともに、自分の考えを持ち、人に説明できる力を養う。						

授業計画	回	内容
	1	オリエンテーション／社会福祉とは
	2	現代社会の動向と社会福祉の意義
	3	社会福祉の歴史
	4	社会福祉の法律と制度
	5	社会福祉の実施体制
	6	社会福祉の施設と専門職
	7	社会保障制度①
	8	社会保障制度②
	9	子ども家庭福祉の法と制度
	10	高齢者福祉の法と制度
	11	障害者福祉の法と制度
	12	社会福祉とソーシャルワーク
	13	福祉サービスの利用支援と権利擁護
	14	社会福祉の動向と課題
	15	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評価基準	割合
	授業姿勢	出席状況、授業への参加意欲および取り組みの姿勢を総合的に評価する	60%
	試験	試験における理解度および正答率により評価する	40%

教科書	『みらい×子どもの福祉ブックス　社会福祉』（2025年4月）株式会社みらい
参考図書	授業時に適宜案内する
準備学習	事前に教科書に目を通すなど、予習をしておくことを推奨する
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパー等を活用し、次回以降の授業において適宜フィードバックを行う。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	予習・復習あわせて30分～1時間程度を目安とする。
実務経験と資格等	社会福祉士・精神保健福祉士

科目名	子ども家庭支援論 保育士（必修）					担当者名	中田　麗子
ナンバリング	26Y24C13	授業の種類	講　義	単位数	2	開講時期	２年・①
授 業 内 容	子ども家庭支援の意義・目的および保育士の役割について学ぶ。現代の子育て家庭を取り巻く社会状況や課題を踏まえ、保育所内外における多様な家庭支援の在り方を学習する。さらに、法・制度や社会資源の全体像と、連携について学ぶ。						
到 達 目 標	現代の子育て家庭の状況と課題、子育て支援の制度や社会資源の全体像を理解し、保育士が担う家庭支援の役割と姿勢、意義と目的を理解する。						

授業計画	回	内　　容
	1	「子ども家庭支援論」の概要
	2	子ども家庭支援の役割
	3	子育て家庭と社会の変容
	4	保育士が担う子ども家庭支援の姿勢と倫理
	5	グループワーク①
	6	保育所を利用する全ての子育て家庭を対象とした支援
	7	特別な配慮を必要とする子育て家庭への支援
	8	地域の子育て家庭への支援
	9	保育所を利用していない子どもへの支援
	10	グループワーク②
	11	社会的養護を必要とする家庭への支援
	12	子ども家庭支援に関わる法・制度
	13	子ども家庭支援における社会資源との連携
	14	グループワーク発表
	15	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業参加状況	授業ごとのリアクションペーパーを提出できたか	30%
	課題レポート		70%

教科書	橋本真紀・鶴宏史編著『よくわかる子ども家庭支援論』ミネルヴァ書房
参考図書	適宜指示する
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーは、次の授業の際に講評を行う。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～２時間を推奨する
その他　留意事項	保育士資格必修科目
実務経験と資格等	・保育士資格　・児童養護施設におけるボランティア経験あり ・保育園および地域の子育て支援の施策やサービスを当事者として受けた経験あり ・保育施設における保護者参画に関する研究に従事している

科目名	社会的養護Ⅱ 保育士（必修）					担当者名	比田井　友香
ナンバリング	26Y24C14	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・③
授業内容	子ども理解を踏まえた日常生活支援、治療的支援、自立支援などの社会的養護の基礎的な内容、施設養護及び家庭養護の生活特性と実際について解説する。そのうえで、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際と社会的養護に関わる相談援助の方法や技術、子どもの虐待の防止と家庭支援及び今後の課題と展望について考察する。						
到達目標	社会的養護における子ども理解のうえで、アセスメントと個別支援計画の作成、記録及び自己評価を作成することができる。						

授業計画	回	内　　容
	1	社会的養護における子どもの理解について
	2	日常生活支援・治療的支援・自立支援について
	3	施設養護及び家庭養護の生活特性及び実際について
	4	アセスメントと個別支援計画の作成
	5	記録及び自己評価について
	6	保育の専門性に関わる知識と技術及び実践について
	7	社会的養護に関わる相談援助の知識と技術及び実践について
	8	社会的養護における家庭支援及び課題と展望

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業姿勢	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価	30%
	中間レポート	テーマに基づき問題意識を持ち、自分の考えを述べられているかを中心に評価	30%
	試験	問題の正答率	40%
			%

教科書	『みらい×子どもの福祉ブックス　社会的養護Ⅱ　第2版』（2025年3月1日） 株式会社みらい
参考図書	授業時に適宜案内する
準備学習	事前に教科書に目を通すなど、予習をしておくことを推奨する
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	社会福祉士・精神保健福祉士

科目名	子ども家庭支援の心理学 保育士（必修）					担当者名	平澤　泉
ナンバリング	26Y24B15	授業の種類	講　義	単位数	2	開講時期	１年・④
授 業 内 容	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識について学ぶとともに、初期体験の重要性や発達課題、家族や家庭の意義と機能、親子関係や家族関係等について発達的な観点から考察していく。						
到 達 目 標	子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題及び子どもの精神保健とその課題について理解している。						

授業計画	回	内　　容
	1	授業の目的と概要について
	2	現代社会における子育て支援の必要性について
	3	乳幼児期から学童期前期にかけての発達について
	4	学童期後期から青年期にかけての発達について
	5	成人期・老年期における発達について
	6	家族・家庭の意義と機能について
	7	親子関係・家族関係の理解について
	8	子育ての経験と親としての育ちについて
	9	子育てを取り巻く社会的状況について
	10	ライフコースと仕事・子育てについて
	11	多様な家庭とその理解について
	12	特別な配慮を要する家庭について
	13	子どもの生活及び生育環境とその影響について
	14	子どもの心の健康に関わる問題について
	15	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	レポート	講義の趣旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか	30%
	試験	問題の正答率	70%
			%
			%

教科書	「子ども家庭支援の心理学 子どもの未来を支える家庭支援のあり方を探る」著編／北川裕美子 他3名 著／小川綾子他１２名
参考図書	「シードブック 子ども家庭支援の心理学」 編著／本郷一夫、神谷哲司　　「子ども家庭支援」著者／倉石哲也、大竹智 出版社／ミネルヴァ書房
準備学習	授業に提示する課題に取り組み理解する。不明点は調べて理解する。教科書を読み込み予習をしておく。
課題等に対するフィードバック方法	返却時における講評、解説を行う。
準備学習(予習・復習等)　　に必要な時間	１～4時間を推奨する
その他　留意事項	知識理解と共に課題意識を持ち授業に参加する事が望まれる。講義形式の講義の他、個人発表、２人から数人のグループ学習や討議等、参加型のワークショップや発表も行う。リフレクションを実施する。現代社会における子育て家庭を支援する知識と技術を身に付ける。
実務経験と資格等	【実務経験】幼稚園教諭、ファミリー・サポート・センターアドバイザー、地域子育て支援拠点「ひろば」の主任保育士、利用者支援事業利用者支援専門員（子育てコンシェルジュ）【資格・免許】幼稚園教諭二級免許、保育士、利用者支援事業利用者支援専門員

科目名	子どもの理解と援助 保育士（必修）					担当者名	畔上一康
ナンバリング	26Y24C16	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・①
授 業 内 容	保育実践において実態に即した子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義と、子どもの体験や学びの過程において子どもを理解の視点と基本的な考え方について解説し、子どもを理解するための具体的な方法について学習する。						
到 達 目 標	発達の課題に応じた援助と関わりや、特別な配慮を要する子どもの理解と援助について理解している。						

授業計画	回	内　　容
	1	保育における子どもの理解の意義について
	2	子どもを取り巻く環境と子ども理解（1）発達と環境
	3	子どもを取り巻く環境と子ども理解（2）保育実践へのエコロジカルアプローチ
	4	子どもを理解における保育士の観（1）保育士の姿勢となまざし
	5	子どもを理解における保育士の観（2）保育実践における観の転回
	6	保育における個と集団の関係の理解と援助
	7	ポストヒューマン的視点からのインクルーシブ保育
	8	子どもの理解を深める保育の協働性

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業態度	授業への参加意欲・取組姿勢を評価する	30%
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか	30%
	各回のリアクションペーパー	振り返りを通して思考を深めようとしているか	40%
			%

教科書	適宜資料を配布する。
参考図書	「子ども理解と援助」ミネルヴァ書房
	「子どもと創造するインクルーシブな保育」ミネルヴァ書房
準備学習	授業に提示する課題をその都度理解し、分からない箇所は調べておく。
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却する。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	小学校教諭，教頭，附属小副校長（計35年），信州大学大学院教授（8年），長野短期大学学長（2年）（資格）小学校教員免許，中学校教員免許，高等学校教員免許

科目名	子どもの保健 保育士（必修）					担当者名	吉澤　恵子
ナンバリング	26Y24C17	授業の種類	講　義	単位数	2	開講時期	２年・①
授業内容	健康の概念と健康指標及び保健活動の意義と目的について概説したうえで、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題及び子どもの心身の健康増進を図る保健活動について解説する。そのうえで、身体発育及び運動機能並びに生理機能の発達と保健について学ぶとともに、子どもの心身の健康状態とその把握の方法及び子どもの主な疾病の予防と適切な対応について学習する。						
到達目標	子どもの心身の健康状態とその把握の方法及び子どもの主な疾病の予防と適切な対応について理解する。						

授業計画	回	内　　容
	1	授業の目的と概要について
	2	健康の概念と健康指標について
	3	生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的について
	4	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について
	5	身体発育の発達と保健について
	6	運動機能の発達と保健について
	7	生理機能の発達と保健について
	8	健康状態の観察について
	9	子どもの体調不良の早期発見、救急疾患の特徴と適正な対応について
	10	発育・発達の把握と健康診断について
	11	子どもの疾病の予防と適切な対応について①アレルギー疾患について
	12	子どもの疾病の予防と適切な対応について②子どもの免疫の発達と感染症の特徴について知る
	13	子どもの疾病の予防と適切な対応について③感染症予防とその対応について理解する
	14	保健活動における地域連携と虐待防止について理解する
	15	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	小テストや課題提出	課題の理解度	20%
	試験	正答率	80%
			%
			%

教科書	授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト　改訂2版　小林　美由紀編著　森脇　浩一編集協力　診断と治療社
参考図書	・国民衛生の動向（厚生労働省）　　・保育所保育指針
準備学習	授業計画で示されている内容について、身近な子どもたちや新聞記事等に関心を持ち、授業に参加すること
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを参考に、前回の授業の質問や振り返りを簡単に行う。また課題等は、採点後必要に応じて授業内で返却し、講評する
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する
その他　留意事項	授業内で伝えますが、自身の母子健康手帳を使用する時間があります。
実務経験と資格等	行政保健師として保健センターや子育て・子育ち支援課、発達相談センターでの勤務経験、ならびに養護教諭として学校行事等への従事経験あり。

科目名	子どもの食と栄養 保育士（必修）					担当者名	風間　悦子
ナンバリング	26Y24C18	授業の種類	演　習	単位数	2	開講時期	２年・①
授 業 内 容	健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養と子どもの発育・発達と食生活の関連について具体例を挙げながら理解を深めるようにする。						
到 達 目 標	養護及び教育の一体性を踏まえた保育における意義と目的や基本的考え方について、理解することができる。						

授業計画	回	内　　容
	1	授業の目的と概要について
	2	子どもの心身の健康と食生活について
	3	子どもの食生活の現状と課題について
	4	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について
	5	食事摂取基準と献立作成・調理の基本について
	6	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について
	7	幼児期・学童期の心身の発達と食生活について
	8	保育における食育の意義・目的と基本的考え方について
	9	食育の内容と計画及び評価及び環境について
	10	食生活指導及び食を通した保護者への支援について
	11	家庭や児童福祉施設における食事と栄養について
	12	疾病及び体調不良の子どもへの対応について
	13	食物アレルギーのある子どもへの対応について
	14	障害のある子どもへの対応について
	15	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業参加姿勢	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する	40%
	課題提出	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか	60%

教科書	子どもの食と栄養ー演習ー　　岡崎光子編著　　同文書院
参考図書	
準備学習	授業に掲示する課題をその都度きちんと理解しわからない箇所は調べておき、あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと
課題等に対するフィードバック方法	返却時における講評、解説を行う。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～4時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	管理栄養士

科目名	乳児保育Ⅱ 保育士（必修）					担当者名	橋本　佳美
ナンバリング	26Y24C19	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・②
C	３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的てきな考えを解説し、養護や教育の一体性をふまえ子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的な事例を取り上げ、乳児保育における計画の作成について学習する。						
到 達 目 標	乳児保育について長期・短期・個別・集団の指導計画を立てることができる。						

	回	内　　容
授業計画	1	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて
	2	子どもの主体性の尊重と自己の育ち及びと学びの芽生えについて
	3	生活の流れと生活や遊びを支える環境の構成について
	4	３歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について
	5	３歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際について
	6	乳児保育における配慮の実際について
	7	長期的な指導計画と短期的な指導計画について
	8	個別的な指導計画と集団の指導計画について

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	課題提出	課題の意味を理解し記述できているか	30%
	試験	正答率	50%
	参加態度	発言し提案していたか	20%

教科書	菊池篤子編(2022)．ワークで学ぶ乳児保育Ⅰ・Ⅱ．みらい
参考図書	①田中真介(2009)．発達がわかれば子どもが見える　０歳から就学までの目からウロコの保育実践．幼児保育研究会 ②林万リ(2011)．優しく学ぶからだの発達．全障研出版部 ③吉本和子(2002)．乳児保育　一人ひとりが大切に育てられるために．エイデル研究所
準備学習	毎回提示する課題を学習すること。テキストの該当箇所を読んで授業に参加すること
課題等に対するフィードバック方法	提出された課題はその次の会までにコメントして返却する。 その授業の最後に質問を受ける
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	資格：看護師、助産師 実務経験：産科経験7年間、NICU,小児科経験6年間、障害児施設5年間の実務経験あり

科目名	子どもの健康と安全 保育士（必修）					担当者名	吉澤　恵子
ナンバリング	26Y24D20	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・③
授業内容	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助と衛生管理や事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について概説する。そのうえで、子どもの体調不良等に対する適切な対応や感染症対策など、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的な事例を取り上げながら学習する。						
到達目標	子どもの健康及び安全に関わる組織的取り組みや保健活動の実践について考えその計画及び評価ができる。						

授業計画	回	内　　容
	1	保健的視点を踏まえた保育環境（衛生管理）について理解する（演習）
	2	保育における保健的対応について：保育における保健的対応の基本的な考え方について知る（身体計測・演習）
	3	子どもの疾病と適切な対応：子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握と傷病が発生した時の対応について考える（グループワーク）
	4	応急処置、救急処置、アナフィラキシーへの適切な対応及び救急蘇生法について
	5	感染症の予防と対策　発症時と罹患後の対応について理解する（嘔吐物処理・演習）
	6	事故防止及び健康安全管理について：健康及び安全管理体制　職員間の連携・協働と組織的取り組みについて考える（ヒヤリ・ハット・演習）
	7	個別的な配慮や障害のある子どもへの対応について考える
	8	保育における保健活動の計画と地域の関連する組織体制について理解する（演習）

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	グループワークや演習での課題	グループワークや演習への参加態度、課題の理解度を評価	30%
	試験	正答率	70%

教科書	「これならわかる！子どもの保健演習ノート」　改訂第３版追補　　小林美由紀執筆
参考図書	・保育所保育指針　・ 保育所における感染症対策ガイドライン　・保育所におけるアレルギー対応ガイドライン等
準備学習	各回の授業内容について、「子どもの保健」の教科書：授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト　改訂2版　小林　美由紀編著　森脇　浩一編集協力　診断と治療社で復習しておくこと
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを参考に、前回の授業の質問や振り返りを簡単に行う。また課題等は、採点後必要に応じて授業内で返却し、講評する
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	演習授業であるため、欠席した場合は必ず演習した内容の確認を行いましょう。
実務経験と資格等	行政保健師として保健センターや子育て・子育ち支援課、発達相談センターでの勤務経験、ならびに養護教諭として、学校行事等への従事経験あり。

科目名	子育て支援 保育士（必修）					担当者名	平澤　泉
ナンバリング	26Y24D21	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・③
授 業 内 容	子どもの保育とともに行う保護者の支援や日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成など、保育士の行う子育て支援の特性について概説し、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について、実践事例等を通して具体的に学習する。						
到 達 目 標	子育て支援の計画と実践や社会資源の活用について理解する。						

授業計画	回	内　　容
	1	保育者が行う子育て支援の特性について
	2	要支援者の状況や状態の把握と支援の計画について
	3	支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて
	4	保育所等及び地域の子育て家庭に対する支援について
	5	保育所等及び地域の子育て家庭に対する支援について
	6	障害や特別な配慮を要する子どもと家庭に対する支援について
	7	虐待の予防と対応及び要保護児童等の家庭に対する支援について
	8	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解について授業の目的と概要について

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	レポート	講義の趣旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか	30%
	試験	問題の正答率	70%
			%
			%

教科書	「子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック」著／二宮祐子 出版社／萌文書林
参考図書	「人口減少時代に向けた 保育所・認定こども園・幼稚園の子育て支援 地域とともに歩む22の実践事例」編集代表／倉石哲也　出版社／中央法規出版　「今、もっとも必要な これからの子ども・子育て支援」（これからの保育シリーズ９）編著／土谷みちこ 著者／汐見稔幸 他3名 出版社／風鳴舎
準備学習	授業に提示する課題に取り組み理解する。不明点は調べて理解する。教科書を読み込み予習をしておく。
課題等に対するフィードバック方法	返却時における講評、解説を行う。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	知識理解と共に課題意識を持ち授業に参加する事が望まれる。講義形式の講義の他、個人発表、２人から数人のグループ学習や討議等、参加型のワークショップや発表も行う。リフレクションを実施する。現代社会における子育て支援に関するする知識と技術を身に付ける。

実務経験と資格等	【実務経験】幼稚園教諭、ファミリー・サポート・センターアドバイザー、地域子育て支援拠点「ひろば」の保育士、利用者支援事業利用者支援専門員(子育てコンシェルジュ) 【資格・免許】幼稚園教諭二級免許状、保育士証、利用者支援事業利用者支援専門員

科目名	幼児と運動 選択					担当者名	白金　俊二
ナンバリング	26Y24D22	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・③
授 業 内 容	鬼遊び、ボールなどの用具を使った遊び、遊具や器械・器具を使った遊び、その他環境を活用した遊びを実践的に学び、支援の仕方を身に付ける						
到 達 目 標	・幼児の知的発達や運動機能の発達等を理解して保育を構想できる ・幼児期の運動遊びの意義を理解できる						

授業計画	回	内　　容
	1	鬼遊び
	2	多様な動きをつくる運動遊び
	3	器械・器具を用いた運動遊び
	4	走ったり跳んだりする運動遊び
	5	ボールを使った運動遊び
	6	伝承遊び
	7	表現リズム遊び
	8	まとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	課題レポート	課題の主旨に沿って適切にまとめられたか	50%
	実技課題	それぞれの運動の特性を理解し、基礎的な知識・技能の習得ができたか	50%

教科書	運動遊びのアイデアBOOK（ほおずき書籍）
参考図書	幼児期運動指針（文部科学省）
準備学習	授業時に指示・解説する。
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却する
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	水分補給、環境整備など安全に留意して行いましょう
実務経験と資格等	長野県内の公立小学校・中学校教諭として26年間勤務 地域のスポーツクラブの指導者及び幼児の運動遊び教室の指導者

科目名	幼児と音楽 選択					担当者名	浅倉　惠子 村椿彬子
ナンバリング	26Y24D23	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・③
授 業 内 容	幼児の音楽表現活動の実際を理解し、保育者援助について実践的に学ぶ。						
到 達 目 標	子どもの音楽表現活動を学び、保育者援助法を身につける。						

	回	内　　容
授業計画	1	子どもの歌の音楽理論について学ぶ（1）
	2	子どもの歌の音楽理論について学ぶ（2）
	3	子どもの音楽表現活動（１）歌唱・声の表現活動
	4	子どもの音楽表現活動（２）器楽遊びの表現活動
	5	弾き歌いのコード奏法を学ぶ（1）
	6	弾き歌いのコード奏法を学ぶ（2）
	7	弾き歌いの実践（1）
	8	弾き歌いの実践（2）

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	平常点評価	授業への取り組み姿勢を評価する	60%
	試験	音楽表現の実技試験	40%

教科書	『ピアノ伴奏こどものうた136』成美堂出版、2023年
参考図書	参考資料を配付する
準備学習	ピアノの練習や音楽表現の練習をする
課題等に対するフィードバック方法	表現発表後に講評を行う
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	毎回の授業の復習に1～2時間を奨励する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	幼児と造形 選択					担当者名	猪瀬 昌延
ナンバリング	26Y24D24	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	2④
授 業 内 容	幼児と保育者それぞれの視点を持ち、造形活動を実践する。素材の基本的な扱い方と用具の安全で正しい扱い方を実践を通して確認するとともに、園の年間行事を念頭に置き、造形活動の教育的意義と活用を考える。						
到 達 目 標	子ども達の造形活動は遊びと密接な関係をもち、体全体を使って行われることを理解して活動を支えると共に、保育者として感性を豊かにし、制作実践を通して自己と外界世界と触れ合い感じ、柔軟な支援が可能になる。						

授業計画	回	内　　容
	1	表現技法Ⅰ（描画基礎）
	2	表現技法Ⅱ（工作基礎）
	3	造形表現①構想と実践
	4	造形表現②制作と発表（課題提出）
	5	造形表現③構想と実践
	6	造形表現④制作と発表（課題提出）
	7	行事と造形活動①構想と制作
	8	行事と造形活動②制作と発表（課題提出・レポート提出）

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	平常点評価	授業への取り組み姿勢を評価する	40%
	課題提出	課題に対して積極的に取り組んだか	40%
	レポート	趣旨を理解し、適切にまとめて提出されたか	20%

教科書	「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、 「表現指導法」上野奈初美 編著 萌文書林、「保育をひらく造形表現」槙英子 萌文書林
参考図書	随時紹介する。
準備学習	あらかじめ教科書等に目を通し、予習をしておくこと。
課題等に対するフィードバック方法	課題の提出時等に講評会を行う。
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	毎回の授業の復習に1～2時間を奨励する。
その他　留意事項	・各授業において指定する用具や素材を各自準備すること。なお指定した用具等を当日に忘れた場合は、欠席扱いになることがある。 ・課題に応じて材料費が必要となる事がある。 ・その他、必要に応じて周知する
実務経験と資格等	現職:信州大学教育学部准教授　※中学校・高等学校(美術・工芸)専修免許状を所持し教員実務経験をもつ。

科目名	幼児と安全 選択					担当者名	関　香保里
ナンバリング	26Y24D25	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・④
授 業 内 容	幼稚園や保育園、認定こども園などの教育・保育施設において多発している様々な事故の現状について概説したうえで、教育・保育施設において起こりがちな事故について過去の事例を踏まえながら解説するとともに、事故が発生した主な原因などを取り上げて事故の防止と対策のポイントを学習する。						
到 達 目 標	事故を防ぐために何をすべきか、子どもの命を守るために何ができるのかなど、事故の防止と対策のポイントについて理解している。						

	回	内　　容
授業計画	1	教育現場や保育施設で起こる事故について
	2	事故事例（１）お昼寝中の事故事例
	3	事故事例（２）食事中の事故事例
	4	事故事例（３）散歩中の事故事例
	5	事故事例（４）送迎中の事故事例
	6	事故事例（５）年齢別の事故事例
	7	事故防止と事故対策（１）事故が起こりやすい場所の特定
	8	事故防止と事故対策（２）危険性や改善点の園内での共有

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業態度	授業への参加意欲・取組姿勢を評価する	50%
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか	30%
	各回のリアクションペーパー	振り返りを通して思考を深めようとしているか	20%
			%

教科書	適宜資料を配布する。
参考図書	「幼稚園教育要領解説」（最新版）文部科学省。フレーベル館
	「保育所保育指針解説」（最新版）厚生労働省。フレーベル館
	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省・フレーベル館
準備学習	授業に提示する課題をその都度理解し、分からない箇所は調べておく。
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却する。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	幼稚園主任１０年、保育園園長２年、こども園園長１年　保育士資格・幼稚園教諭免許

専門関連科目

科目名	人間関係構築力基礎 選択					担当者名	関　香保里
ナンバリング	26Y26D01	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・④
授 業 内 容	乳幼児と関わる多様な人の課題を理解し、幼稚園や保育園、認定こども園などの教育・保育施設においての現状を解説する。また、対応策を学習する。						
到 達 目 標	保育現場での多様な人との関わりを理解している。						

	回	内　　容
授業計画	1	人間関係と人間関係構築力について
	2	多様な人間関係について（１）初対面の人との関わり
	3	多様な人間関係について（２）ネット社会の人間関係
	4	多様な人間関係について（３）幼児・保護者との人間関係
	5	多様な人間関係について（４）上司・同僚との人間関係
	6	コミュニケーション技法（質問力・傾聴力・共感力）
	7	コミュニケーション技法（平等性・実行力）
	8	専門職として期待される人間関係について

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業態度	授業への参加意欲・取組姿勢を評価する	30%
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか	30%
	各回のリアクションペーパー	振り返りを通して思考を深めようとしているか	40%
			%

教科書	適宜資料を配布する。
参考図書	「幼稚園教育要領解説」（最新版）文部科学省。フレーベル館
	「保育所保育指針解説」（最新版）厚生労働省。フレーベル館
	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省・フレーベル館
準備学習	授業に提示する課題をその都度理解し、分からない箇所は調べておく。
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却する。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	幼稚園主任１０年、保育園園長２年、こども園園長１年　保育士資格・幼稚園教諭免許

科目名	心理学的支援法基礎 選択					担当者名	細渕　富夫
ナンバリング	26Y25D03	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・③
授 業 内 容	心理的支援の意義や目的と心理学的支援法の特質について概説したうえで、心理学的支援法の基礎的な理論と方法、幼児期における特徴的な心理的問題について考察するとともに、心理学的支援法の実際や心理的支援における留意点について学習する。						
到 達 目 標	心理的な支援法の基礎的な理論と方法、幼児期における特徴的な心理的問題、心理的支援法の実際について理解している。						

授業計画	回	内　　容
	1	心理学的支援の意義と目的について
	2	心理学的支援法の特質について
	3	心理学的支援法の理論と方法について
	4	心理学的支援法の主要理論
	5	福祉の中での心理学的支援について
	6	教育の中での心理学的支援について
	7	心理学的支援の実際について
	8	心理学的支援における留意点について

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	コメントカード	授業を理解し、その概要を適切にまとめ、乾燥・意見を整理できたか	20%
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか	30%
	試験	問題の正答率	50%
			%

教科書	日比野英子『臨床心理学と心理的支援を基礎から学ぶ』北大路書房、2021年
参考図書	特になし。
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。
課題等に対するフィードバック方法	返却時にコメント、解説を行う。
準備学習(予習・復習等)　に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	ワークブック等を活用して理解を深める。
実務経験と資格等	臨床発達心理士・公認心理師として、幼稚園、特別支援学校等で相談支援に従事してきた。

科目名	心理アセスメント基礎 選択					担当者名	細渕　富夫
ナンバリング	26Y25D01	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・③
授 業 内 容	心理アセスメントの意義と目的及び心理アセスメントの分類と基本的な手段や手法について解説したうえで、対象者の情報の見極めと適切な判断及び信頼関係の構築やプライバシーの遵守など、心理アセスメントにおける留意点について学習する。						
到 達 目 標	心理アセスメントの意義と目的及び分類と基本的な手順や手法、心理アセスメントにおける留意点について理解する。						

授業計画	回	内　　容
	1	心理アセスメントの意義と目的及び分類について
	2	心理アセスメントにおける倫理的配慮について
	3	アセスメント技法Ⅰ（観察法）
	4	アセスメント技法Ⅱ（面接法）
	5	アセスメント技法Ⅲ（検査法）
	6	インフォームドコンセントについて
	7	カウンセリング技法の原則について
	8	面接を妨害する要因と記録について

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	コメントカード	授業を理解し、その概要を適切にまとめ、乾燥・意見を整理できたか	20%
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか	30%
	試験	問題の正答率	50%

教科書	沼初枝『臨床心理アセスメントの基礎』ナカニシヤ出版、2020年
参考図書	河合隼雄『無意識の構造』中公新書、2017年。
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。
課題等に対するフィードバック方法	返却時にコメント、解説を行う。
準備学習(予習・復習等)　に必要な時間	１～2時間を推奨する
その他　留意事項	ワークブック等を活用して理解を深める。
実務経験と資格等	臨床発達心理士・公認心理師として、幼稚園、特別支援学校等で相談相談に従事してきた。

専門実習科目

科目名	教育実習指導 幼２種必修					担当者名	池田俊治・杉浦英樹 ・村椿彬子
ナンバリング	26Y26C01	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・①②
授 業 内 容	教育実習の概要を理解し、実習日誌等の記録の取り方、保育指導案の作成の仕方について学ぶ。履修者各自が課題を明確にして実習に臨むことができるようにするとともに、将来の保育に向け、今後の実践課題について共同で考える機会をもつ。						
到 達 目 標	①教育実習に取り組む前に明確な実習課題をもつ。②保育指導案の作成や日誌の作成に必要な基本的な力量をつける。③実習の振り返りを通して今後の実践課題を認識する。						

授業計画	回	内　　容
	1	教育実習の概要、実習に必要な書類について
	2	実習目標と課題の設定、オリエンテーションについて
	3	記録の取り方①　時系列の記録について
	4	記録の取り方②　エピソード記録について
	5	保育指導案の作成①　模擬保育に向けた指導案の作成
	6	保育指導案の作成②　グループによる模擬保育の実践
	7	教育実習の事後検討①□
	8	教育実習の事後検討②□

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業への姿勢	実習に向けた取り組みの真摯さ	30%
	提出物の内容	実習課題の理解、課題内容の適切さ	30%
	事後検討の内容	自身の実習に対する振り返りの深さ	40%
			100%

教科書	幼稚園教育要領
参考図書	
準備学習	
課題等に対するフィードバック方法	提出物の内容について解説する。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１～２時間を推奨する。
その他　留意事項	必要に応じて周知する。
実務経験と資格等	

科目名	教育実習 幼2種（必修）					担当者名	杉浦英樹・池田俊治
ナンバリング	26Y26C02	授業の種類	実　習	単位数	4	開講時期	２年・②
授 業 内 容	実際に幼稚園教育に触れる体験を通して、幼稚園教員という専門職に必要な知識・技能を高める。幼児教育者として求められる役割と行動を理解し、幼児理解に基づき保育を構想し、教材研究を通じて実践力の育成をする。						
到 達 目 標	①幼稚園において実際に幼児と触れ合うという体験を通して幼稚園教員となるための実践的な学びを深める。②教育現場の実情・実態に触れ、求められる幼児教育に関して理解する。						

実習計画	内　容
	【実習前半：観察・参加・部分実習の実践】 ① 見学・観察を通して幼稚園の機能を学ぶ ② 幼稚園における一日の保育の流れを理解する ③ 幼稚園における幼児の生活と活動について学ぶ ④ 幼稚園における保育環境のあり方について学ぶ ⑤ 幼稚園における保育者の仕事内容を知る ⑥ 担任教諭の指導計画を踏まえ保育の流れを理解する ⑦ 幼児に親しみ、その接し方に慣れる **【実習後半：観察・参加・部分実習の実践】** ① 担任教諭の指導計画を踏まえ保育の流れを理解する。 ② 幼児に親しみ、その接し方に慣れる ③ 担任教諭の指示を受けながら、保育の補助的な仕事に部分的に参加する ④ 幼児の個人差について理解し、反応方法を修得する。 ※特に発達の状況や生活環境にともなう幼児のニーズを理解しその対応について学ぶ ⑤ 指導計画を立案し、全日指導を体験する ⑥ 幼稚園教諭としての職業倫理を理解し、使命感を育む ⑦ 幼稚園教諭に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題を明確にする。

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	日誌評価	実習の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか	60%
	園評価	幼稚園での実習全般への取り組み姿勢	40%

教科書	「保育実習日誌・指導案」浅井拓久也　明治図書、「幼稚園教育要領解説」文部科学省　フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府　文部科学省　厚生労働省　フレーベル館、「保育所保育指針解説」厚生労働省　フレーベル館
参考図書	必要に応じその都度、提示する。
準備学習	あらかじめ教科書やを通ノートに目を通しておくこと。
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却をする。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	講義・演習科目は１～4時間、実技・演習科目は１～2時間を推奨します。
その他　留意事項	必要に応じ周知する。
実務経験と資格等	

科目名	保育実習Ⅰ 保育士（必修）					担当者名	中野明子　中田麗子
ナンバリング	26Y26D03	授業の種類	実 習	単位数	4	開講時期	1④～2①
授 業 内 容	これまでの机上での学習を総合的に捉えるために、実際に保育の現場に加わる。その中で実際に現場の指導者を観察し、指導者や子ども、利用児（者）の行動を記録することにより、子どもの発達や支援方法を考察する。 また、計画を立案し、指導を行うことで、個々や集団に応じた指導計画について考える。						
到 達 目 標	**＜保育実習Ⅰ（保育所）＞** ・乳幼児のとのふれあいを通して、保育所での子どもの生活を理解することができる。 ・乳幼児と意欲的に関わりながら、乳幼児の発達や行動についての理解を深めることができる。 ・保育士と乳幼児との相互作用（働きかけ）を観察し、保育士の支援方法を模倣するなど、保育技術を学習する。 ・可能な範囲において、指導計画を立案し、部分実習を実践することができる。 ・保育士の職務内容と役割、職員間のチームワークなどを総合的に理解することができる。 ・これまでに学んだ知識や技術を実習の場で総合的にとらえ直し、新たな学習課題の発見と学習意欲へとつなげることができる。 **＜保育実習Ⅰ（施設）＞** ・利用児（者）や保育士と生活を共にすることによって、利用児（者）の生活および施設の機能を理解することができる。 ・利用児（者）と意欲的に関わり、かつ保育士の活動から積極的に学び取ることができる。 ・保育士の職務内容と役割、職員間のチームワークなどを、体験的に捉えることができる。 ・これまでに学んだ知識や技術を実習の場で総合的にとらえ直し、新たな学習課題の発見と学習意欲へとつなげることができる。 ・可能な範囲で事例検討を行うことができる。 ・自らの児童、施設養護、あるいは家庭や社会についての考えを深めることができる。						

授業計画	回	内　容
		―保育実習計画に基づく実習を実施する―

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	事前指導	授業への積極的参加、提出課題の内容など	10%
	実習先の評価	実習先の評価表結果による	30%
	事後指導	実習に対する振り返り、実習報告会の内容、など	10%
	巡回訪問時の評価	巡回時の積極性、子どもに対する態度、など	20%
	記録の内容	子ども理解などの記述内容、精密さ、丁寧さ、など	20%
	実習に対する態度	事前準備、積極性、健康管理、自己分析、などの総合評価	10%

教科書	部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
参考図書	適宜指示する
準備学習	適宜指示する
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	１時間～２時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	保育実習Ⅱ 選択必修					担当者名	中野　明子
ナンバリング	26Y26D04	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・③
授業内容	これまでの実習を振り返り、実習生としての適切なふるまい方や子どもとの関わり、保育士の業務内容や子どもへの援助の目的について、保育士の専門性を意識した理解を深めるとともに、保育実践を行うための指導計画を作成する。実習の総括を行うことで、保育士としての意識を高める。						
到達目標	子どもの最善の利益を考慮した保育実践をイメージして適切な指導計画が作成できるようになる。実習の振り返りを行い、保育士としての専門性を高めることができる。						

授業計画	回	内　　容
	1	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
	2	子どもの保育と保護者支援
	3	子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり
	4	保育の知識や技術を活かした保育実践
	5	保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
	6	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
	7	保育士の専門性と職業倫理
	8	実習の総括と自己評価及び課題の明確化

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	実習園（保育所）の評価	時間割外（保育実習Ⅱ実習先での実施状況）	50%
	実習先の評価実習に臨む姿勢	時間割外（保育実習Ⅱ実習先への課題提出など）	50%

教科書	関口はつ江編著 自分をいかす保育実習ハンドブック　大学図書出版
参考図書	
準備学習	保育実習1(保育所)をふまえ、子どもの姿や発達に応じた保育を展開できるよう教材研究を実施。
課題等に対するフィードバック方法	実習先で指導頂いた指導案、日誌の内容について、実習終了後事後指導を行う。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を奨励します。
その他　留意事項	保育実習Ⅰ(保育所)と同じ保育施設で実習を実施することを原則とする。
実務経験と資格等	福島めばえ幼稚園教諭・横浜市認可保育園園長・福島学院大学短期大学部保育学科にて授業担当。(保育士・幼稚園教諭・保育実習指導者認定)

科目名	保育実習Ⅲ 選択必修					担当者名	中野明子
ナンバリング	26Y26D05	授業の種類	実　習	単位数	2	開講時期	２年・④
授　業　内　容	保育所での実習（90時間）を行う。指導計画を作成し、実践、振り返りを行う。						
到　達　目　標	実践を通して、保育士の業務内容を理解する。子どもとの関わりを通して、子ども理解を深める。 指導計画の作成、実践、振り返りを通して、保育実践力を身に付ける。職業倫理や保育士の専門性について理解を深める。						

実習計画	内　　容
	保育実習Ⅰの実習目標を基礎として、さらに次の段階へ進む。 ①利用児（者）や保育士と生活を共にすることによって、利用児（者）の生活および施設の機能を理解することができる。 ②利用児（者）と意欲的に関わり、かつ保育士の活動から積極的に学び取ることができる。 ③保育士の職務内容と役割、職員間のチームワークなどを、体験的に捉えることができる。 ④これまでに学んだ知識や技術を実習の場で総合的にとらえ直し、新たな学習課題の発見と学習意欲へとつなげることができる。 ⑤可能な範囲で事例検討を行うことができる。 ⑥自らの児童、施設養護、あるいは家庭や社会についての考えを深めることができる。 ⑦事例検討や部分実習を行い、個人としての利用児（者）、および集団としての利用児（者）を実践的な関りを通じて理解する。 ⑧子ども観、福祉観、養護観を形成すると共に、将来の保育士としての自覚を高める。

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	実習園（施設）の評価	時間割外（保育実習Ⅲ実習先での実施状況）	70%
	実習先の評価実習に臨む姿勢	時間割外（保育実習Ⅲ実習先への課題提出など）	30%

教科書	関口はつ江編著 自分をいかす保育実習ハンドブック　大学図書出版
参考図書	
準備学習	保育実習Ⅰ（施設）で学んだこと経験したことをふまえ、子どもや利用者に寄り添う支援を目指す。
課題等に対するフィードバック方法	実習先で指導頂いた支援計画案、日誌の内容について、実習終了後事後指導を行う。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を奨励します
その他　留意事項	児童養護系の施設、障害系の施設など、種別については希望を配慮する。保育実習Ⅰ（施設）と同じ施設で実習を実施することを原則とする。
実務経験と資格等	福島めばえ幼稚園教諭・横浜市認可保育園園長・福島学院大学短期大学部保育学科にて授業担当。（保育士・幼稚園教諭・保育実習指導者認定）

科目名	保育実習指導Ⅰ 保育士（必修）					担当者名	中野明子　中田麗子
ナンバリング	26Y26C06	授業の種類	演　習	単位数	2	開講時期	1年④
授業内容	・実習の意義を学び、テーマを設定することができる。 ・望ましい実習生としての姿を理解し、よりよい環境で実習に望む体制を作ることができる。 ・部分実習を実践するために、指導案が書けるようになる。 ・施設における支援計画の理念と実際を学び、記録に反映させることができる。						
到達目標	・実習の意義を学び、テーマを設定することができる。 ・部分実習を実践するために、指導案が書けるようになる。 ・施設における支援計画の理念と実際を学び、記録に反映させることができる。						

授業計画	回	内　　容
	1	授業の目的と概要について
	2	保育実習の意義と目的について
	3	保育実習の概要について
	4	保育実習の内容について
	5	保育実習の課題の明確化（１）実習課題の立て方
	6	保育実習の課題の明確化（２）実習課題の設定と準備学習
	7	保育実習に際しての留意事項（１）子どもの人権と最善の利益の考慮
	8	保育実習に際しての留意事項（２）プライバシーの保護と守秘義務
	9	保育実習に際しての留意事項（３）実習生としての心構え
	10	保育実習における計画と実践について
	11	保育実習における観察について
	12	保育実習における記録と評価について
	13	保育実習の総括と自己評価について
	14	今後の学習に向けた課題の明確化について
	15	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	提出物	実習の自己テーマ、記録、指導案、などの作成	90%
	授業態度	授業への積極的参加、予習復習の励行	10%

教科書	『保育実習のしおり』（長野短期大学編） 『あなたがつくる みんなでつくる 保育所実習』（萌文書林） 厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』（フレーベル館）
参考図書	適宜指示する
準備学習	適宜指示する
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する

準備学習(予習・復習等) に必要な時間	1～2時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	保育実習指導Ⅱ 選択必修					担当者名	中野 明子　中田麗子
ナンバリング	26Y26D04	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・③
授 業 内 容	これまでの実習を振り返り、実習生としての適切なふるまい方や子どもとの関わり、保育士の業務内容や子どもへの援助の目的について、保育士の専門性を意識した理解を深めるとともに、保育実践を行うための指導計画を作成する。実習の総括を行うことで、保育士としての意識を高める。						
到 達 目 標	子どもの最善の利益を考慮した保育実践をイメージして適切な指導計画が作成できるようになる。実習の振り返りを行い、保育士としての専門性を高めることができる。						

授業計画	回	内　　容
	1	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
	2	子どもの保育と保護者支援
	3	子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり
	4	保育の知識や技術を活かした保育実践
	5	保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
	6	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
	7	保育士の専門性と職業倫理
	8	実習の総括と自己評価及び課題の明確化

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業への積極的な取り組み	模擬授業などへの積極的な参加	50%
	課題	授業の中の課題（日誌、指導案提出）	50%

教科書	関口はつ江編著 自分をいかす保育実習ハンドブック　大学図書出版
参考図書	
準備学習	実習受け入れ先などへのボランティア活動等を通して、保育の現場に親しむことを奨励する。
課題等に対するフィードバック方法	提出された日誌、指導案は添削して返却。実習に生かせるように配慮する。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を奨励します。
その他　留意事項	保育実習Ⅰ(保育所)と同じ保育施設で実習を実施することを原則とする。
実務経験と資格等	福島めばえ幼稚園教諭・横浜市認可保育園園長・福島学院大学短期大学部保育学科にて授業担当。(保育士・幼稚園教諭・保育実習指導者認定)

科目名	保育実習指導Ⅲ 選択					担当者名	中野　明子
ナンバリング	26Y26D08	授業の種類	演　習	単位数	1	開講時期	２年・③
授 業 内 容	保育実習Ⅲ（施設）では、各施設の目的や機能、その社会的な役割、自立支援計画や個別支援計画、保護者支援の意義等を理解するとともに、可能な範囲で事例検討の方法を学び、実習期間中に事例検討が行えるよう学びます。						
到 達 目 標	事例検討や部分実習を行い、個人としての利用児（者）、および集団としての利用児（者）を実践的な関りを通じて理解する。 また子ども観、福祉観、養護観を形成すると共に、将来の保育士としての自覚を高める。						

授業計画	回	内　　容
	1	利用児（者）や保育士と生活を共にすることによって、利用児（者）の生活および施設の機能を理解することを学ぶ
	2	利用児（者）と意欲的に関わる方法をどのような姿勢で学べはよいかを考える
	3	保育士の職務内容と役割、職員間のチームワークなどを、体験的に捉えるための学習をする
	4	これまでに学んだ知識や技術を実習の場で活かせるように、新たな学習課題の発見をできるように考える
	5	様々な事例検討を考え実習に活かせるように学ぶ
	6	自らの児童、施設養護、あるいは家庭や社会についての考えを事例を検討する
	7	利用者としての実践的な関りをどうしたらよいか例題を基に検討する。
	8	子ども観、福祉観、養護観を形成すると共に、将来の保育士としての自覚を高める

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	授業態度	授業への積極的な取り組み	50%
	課題	授業の中での課題	50%

教科書	関口はつ江編著 自分をいかす保育実習ハンドブック　大学図書出版
参考図書	
準備学習	与えられた課題は必ず行うこと
課題等に対するフィードバック方法	提出物は添削し、返却する
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する
その他　留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	保育・教職実践演習 （幼稚園） 幼2種・保育士（必修）					担当者名	中野　明子　中田麗子
ナンバリング	26Y26D08	授業の種類	演　習	単位数	2	開講時期	２年・④
授業内容	履修カルテを用いて、学びの自己評価をし保育の学習内容の全体的な構造と科目横断的な理解を深める。保育における事例の検討や幼児教育の実情にふれ保育を構想し教材研究を検討する中で保育の実践力を養う。模擬保育を計画し実践することで子ども理解に基づく保育計画指導案作成や保育の振り返りを行い再構成していく力を育成する。						
到達目標	①幼稚園教諭、保育士としての専門性について理解する。②保育者として求められる使命感、責任感、社会性、対人関係能力、学級経営について自己評価し、今後の自己課題を設定する。③模擬保育を行い保育内容全般の実践的な指導力を育成する。						

授業計画	回	内　　容
	1	授業の目的と概要について
	2	履修カルテ及び教育実習の振り返り（１）保育者としての現代的課題
	3	履修カルテ及び教育実習の振り返り（２）保育者になるための自己課題
	4	現職者との意見交換とグループ討議（１）保育者の意義と役割、職務内容、責任、倫理
	5	現職者との意見交換とグループ討議（２）子どもと家庭の理解、子育て家庭への支援
	6	現職者との意見交換とグループ討議（３）学級経営、学級担任、職員間や地域との連携
	7	ロールプレイング（１）対人関係能力の構築
	8	ロールプレイング（２）保護者の心情と対応
	9	事例研究－グループ学習－（１）教材開発と教材研究
	10	事例研究－グループ学習－（２）事例研究発表
	11	模擬保育－グループ学習－（１）保育の構想と指導案の作成
	12	模擬保育－ロールプレイングー（２）指導案に基づく保育の実践
	13	模擬保育－ロールプレイングー（３）指導案に基づく保育の実践
	14	模擬保育－グループ学習－（４）観察と評定による振り返り
	15	授業のまとめ

成績評価方法と基準	評価方法	評　価　基　準	割合
	試験及びレポート提出など課題	授業で実施する課題の主旨を理解し適切にまとめられたか	70%
	授業への参加の積極性	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する	30%

教科書	「保育教職実践演習」神長美津子編著　光生館、「幼稚園教育要領解説」文部科学省　フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府　文部科学省　厚生労働省　フレーベル館、「保育所保育指針解説」厚生労働省　フレーベル館
参考図書	必要に応じその都度、提示する。

準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。
課題等に対するフィードバック方法	課題に対して返却時における講評、解説を行う。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	講義・演習科目は１～4時間、実技・演習科目は１～2時間を推奨します。
その他　留意事項	必要に応じ周知する。
実務経験と資格等	